

大 夕 張

地 域 ・ 人 間 開 発 計 画



会議レポート

1977年6月

JAPAN
OYUBARI

大夕張 地域・人間開発計画

会議レポート

序 文

I. 具体的未来像

II. 隠れた問題点

III. 实际的提案

IV. 実践方法

V. 実施プログラム

エピローグ

これは大夕張一地域・人間開発会議報告である
大夕張一地域・人間開発会議は
1977年6月17日－23日に
北海道大夕張において
文化事業協会の後援で開催されたものである
© 無断転写を禁ずる―文化事業協会 1977年

目 次

序 文		1
第 一 部	具体的未来像	11
第 1 表	具体的未来像表	15
第 二 部	隠れた問題点	17
第 2 表	隠れた問題点表	19
第 三 部	実際の提案	29
第 3 表	実際の提案表	31
第 3 A 表	地域産業提案	37
第 3 B 表	商業振興提案	38
第 3 C 表	営利本位の農業提案	39
第 3 D 表	公共施設提案	40
第 3 E 表	基本的サービス提案	41
第 3 F 表	地域教育提案	42
第 3 G 表	自活形成提案	43
第 四 部	実践方法	45
第 4 表	実践方法表	49
第 4 A 表	地域の商業基盤の拡張	65
第 4 B 表	本質的な物的発展計画の改善	66
第 4 C 表	全住民の計画への参加	67
第 4 D 表	未来の経済的成長の理解	68
第 五 部	実施プログラム	69
第 5 表	実施プログラム表	71
第 5 A 表	実施プログラム要素	73
プログラム 1	林業振興	74
プログラム 2	観光設備の新設	76
プログラム 3	新しい工業の導入	78
プログラム 4	中小企業再興	80
プログラム 5	共同農業開発	82
プログラム 6	建造物新設	84
プログラム 7	公共施設開設	86
プログラム 8	特別サービス網	88
プログラム 9	大夕張開発協議会	90
プログラム 10	地域活動センター	92
プログラム 11	職業訓練	94
プログラム 12	指導者養成機構	96
プログラム 13	生涯教育組織	98
エピローグ		101
第 6 A 表	予算一覧表	114
第 6 B 表	4 ケ年計画のための予算	115
第 6 C 表	計画資金一覧表	116

序 文

I

位 置

大夕張
地域・人間開発計画
「OHDP」

大夕張地域・人間開発会議は、地域社会の経済面と社会面を扱う計画を開始する最初の段階であった。大夕張は北海道最大の都市札幌から車で南東に1時間半程の所にあり、森や畑を縫う曲りくねった登り下りの多いバス路線の終点に位置する。大夕張地域・人間開発計画は社会・経済両面からの開発での共同の努力である。この計画は、官庁や企業の指導者の理解と激励のもとに、この問題に関心を持つ大夕張の住民と札幌地域の人々によって始められた。この会議は、新しい産業による雇傭の増大、農業の拡大、観光事業を通じて自分達の経済基盤を回復し、公共諸サービスや社会的教育的諸活動での社会的諸形態を再創造し、物理的空間を再構築しようとする大夕張の人々の注意をひいた。この計画はパイロットプログラムと考えられており、そこで使われる色々な方法は、日本の他の小さな町村や農村社会で応用され得るものである。

日 本

日本の国民は国際的専門知識や進歩をとり入れるのが功みな国民として世界に知られている。初期の歴史においても、日本は東南アジアから諸宗教をとり入れ、自分達の独自の生活にとけ込ませた。同様に、中国の芸術や言語様式をとり入れ、日本独自の人生への見方をつけ加えた。ごく最近でも、20世紀の技術を使用して、アジアでは最高度の生活水準に達している。現代都市化の路線に沿った急速な国家の開発は東洋諸国では例がない。30年前の戦後の荒廃から立ちあがり、今や世界の主要先進国の一つとなった。その目ざましい経済復興は奇跡と見なされている。乏しい天然資源にもかかわらず、日本の企業や産業は精密な製品や優秀な自動車や、また増大する投資資本で世界を席卷している。最近では他の先進国共々、西側の巨頭会議に参加するようになった。厳密に作られた教育組織が大学卒業生を送り出す率は高く、文盲率の低さは世界屈指である。学問的業績は日本の経済組織の高揚に欠くべからざるものであった。終身雇傭制度や社員旅行・ボ

ーナス・チームワークといった独自の方針が経済成長の中心をなし、社員に対するゆるがぬ忠誠心を持たせている。人々は政府を信用し、完全雇傭の保障があるということによって様々な問題の解決にあたって、政府に期待しがちである。警察や地域社会の行政組織、強い絆を持った家庭生活によって、あらゆる町内の色々な必要が満たされている。都会の生活が過密化してきたので、国の施策の重点は都市を離れた遠隔地の開発へと移行してきている。住宅地域を設定整備し、同時に工場を分散させて、言わば“中間都市”を造る事が全国的に国の施策として行なわれている。国家への忠誠心と結合した全体合意の過程を用いながら日本は世界に比類のない団結力を培ってきた。日常の儀式的な生活は、この力を絶えず思い起こさせるものであって、それは小さな子供が教室へ入ってきた先生に一齐におじぎをするという事にまで及んでいる。また、一緒になって行動を開始する前に、グループとしての決定を待つ控え目な態度にも同じことが感じられる。大夕張地域人間開発計画は、日本が過疎地の再開発を行ない、地元の住民が自分達の将来を自分達で形づくる力を持っていることを具体的に実際に世界に示そうとする一つの手だてである。

北海道
と
札幌

東京から、日本の最も北の島北海道にある札幌へは、鉄道と連絡船なら 18 時間、飛行機なら 1 時間半で来ることができる。北海道の面積は 83,000 平方キロメートルで、気候はアラスカやカナダやシベリアやスカンジナビアに似ている。ソ連のシベリア大平原からの風は、北部ヨーロッパよりも沢山の雪を北海道に運んでくる。積雪の多い山岳地帯、広大な未開発地域、ヒグマ等が北海道の特色である。昔は北海道は追放されたサムライの亡命の地であり、また現在では目立たなくなったがアイヌが住んでいた。近代の歴史では、過密化した本州からの移住者の流入によって北海道の人口が増加して来た。南部の沿岸地帯は、特に函館から東方へ苫小牧の新しい港にかけて開発され、工業地帯が出来上がっている。現在北海道で産する輸出品としては食料品、鉄鋼、パルプ、紙、木材、製材製品等 126 品目があり、68 ケ国に輸出されている。短い春と夏には乳製品、米、野菜の栽培が行なわれ、周辺の近海では海産物がとれる。札幌は 1972 年の冬期オリンピックで世界的に有名になった。ホテル、商店街、観光客誘致、新しい工業団地が拡大した結果、札幌の人口は 150 万人に達した。札幌は北海道の政治、経済、文化の中心であり、日本全国でも最も成長の速い都市である。日本の古い都市と異って近代的都市計画によって、街路や地下鉄が真直ぐにつくられている。日本人や海外の旅行者やビジネスマンが毎日 50 便ものジャンボ・ジェットで千歳空港に到着する。その人達はスキー、ゴルフ、温泉、登山、国立公園の見物、冬の雪祭り等に訪れる。北海道の広大な未開発地域は開拓意欲に燃える日本人が過密人口によるストレスから開放された新しいモデルを建設し、南方の都市化さ

れた地域での社会的期待に応えたいとの意欲を与えるに十分な土地である。

夕張市

アイヌ原住民が最初に「鉱物の場所」という意味でユウバリと名付け、過去 70 年間この地域は、その主要な資源である石炭産出都市であった。鉱山によって人口が増加し、その結果、水道・ガス・鉱山鉄道・学校・病院・小企業がで、最近では舗装道路ができた。しかし、時代は基本経済を変えてしまった。石炭鉱山会社も国民も 800 から 1,000 m の深さの鉱脈を掘ることは、不経済だと考えるようになってきた。夕張では、15 の炭鉱が 5 つに、人口も 12 万から 4 万 4 千に減った。石炭発掘にもかかわらず、この地域の自然美は維持されている。年長いた鉱夫を含めて、夕張の人々に、既存の資源や施設を利用し、経済を立て直したいと強く願っている。近くの農場を灌漑し、必要な電力を供給するためダムが数年前に建設された。森林は事実上活用されていない。夕張岳と大量の積雪はすでに年間 3 万人の旅行者を引きつけている。穀物や新しい苗木を植えるのに空地が利用されるのを待っている。乳牛飼育場や漁場は 1 時間のところにある。廃棄された炭坑跡には、プラスチックや額ぶちからしいたけ栽培に及ぶ新しい 13 の産業が始められている。夕張の最大の資源であり、また夕張の未来を保障するものは地元民の意欲である。

基本構造

夕張市の中央から車で 30 分いくと夕張岳のふもとの谷の中に大夕張の町がある。この名は「大きな鉱物」という意味であり、48 年前の見込みでは大夕張が山の町として繁栄するであろうということであった。この町は南は最近建設された灌漑と水力発電のためのダムの近くから、北は道路の行きづまりにある廃棄された炭坑跡まで谷を通ってのびており、西の境界は木々の繁茂した丘のふもとであり、東の境界は曲りくねったシュパロ川にそっている。大夕張の歴史は、町を最初に建てた三菱石炭鉱業株式会社によって支配されてきた。この会社は第二次大戦後、人口が 1 万 3 千人になった好景気の年間 100 万トン目の石炭を掘り出した。最近の大きな出来事は、4 年前におこった。その時、鉱山の閉鎖に伴ない 2 ヶ月間で 4,000 人が大夕張から流出した。現在 2,700 人の住民は、いまでも、電気・水道・衛生設備・電話・診療所・札幌への定期バス・設備の整った教育施設・銀行・図書館・3 つの銭湯といった、基本的な都市諸サービスを受けている。市警察や消防署もある。高地であるということと、シベリア風のために 9 月から 5 月にかけて大雪が降り、厳しい寒さが訪れる。屋根や私道からの除雪はほとんどの住民にとって、3～4 時間かかる毎日の仕事である。三菱の建物まで続いている蒸気暖房の高架パイプと南部鉱業所の作業員交替を告げる 1 日 3 回のサイレンは大夕張が会社の町であることを絶えず思い起こさせる。過去 10 年間に亘る鉱山の閉山、及びそれに伴う人口の減少によって、空家や空店舗、生徒が半数しかない

い学校、住人が半分になったアパート、朽ち果てた公共の建物、風雨にさらされた木材が積み上げられている空地などが出現した。全体の印象は、半ば見捨てられたゴーストタウンの様相を呈している。差しせまっているもう一つの閉山をひかえて、年寄り、500人の子供たち、ふみとどまっている300人の鉱夫たち、及びサービス機関に従事している人々は、大夕張の将来について、大変心を痛めている。大多数の住民はこの地にとどまろうと望んでいる。地域開発委員会、木工産業の導入、小規模な観光産業の開始などに、大夕張の存在理由を創造し、その未来を再建しようとする大夕張の人達の決意が示されている。

II

会 議

事業団

ICA「文化事業協会」は、世界開発での人間的要因に関心をもつ世界的な調査・訓練・実行のグループである。この機関はブリュッセル・ボンベイ・シカゴ・シンガポール・ホンコン・ナイロビに本部をもっている。その上、文化事業協会は、24ヶ国の100以上の市に支部をもっている。日本においても、文化事業協会は、実業家グループや地域社会の指導者の協力のもとに、日本政府の厚生大臣の認可を得て民間団体としての法人資格を得る準備を完了している。効果的な人間開発は地元のレベルで開始されなければならないと確信している文化事業協会は、世界のいろいろ異った場所で、24の地域開発計画を計画し、実行している。世界中にまたがっている文化事業協会の諸計画は、政府の行政機関や地方自治体からの補助金、また政府機関だけでなく、民間の財団や民間会社、信託機関、関心を持つ個人などの補助金や現物供与、寄付金などによって支えられている。

起 源

1968年以来、文化事業協会は日本において、地域社会の活性化に関心をもつ人々と共に活動を続けて来ている。実業家や地域社会の指導者達が、文化事業協会が行なっているプログラムに参加し、実際に役に立つ社会的方法による訓練を受けた。地域社会における社会経済開発に効果的な方法である事を実証する為に、集中的な調査が日本国中の多くの候補地について行なわれた。その結果大夕張が選ばれた。世界から集まった文化事業協会のスタッフの度重なる訪問によって、大夕張が実施価値の高い地域である事が確認された。なぜなら大夕張は、北海道の中では開発の必要性のある代表的地域であり、日本中でも代表的過疎地だからであった。1977年5月、夕張市長の招きに応じて文化事業協会のスタッフが大

夕張に住居を構え、大夕張開発対策委員会の協力を得て、会議の準備を始めた。地元住民は気持ちよくすべての物的な準備に手をかけた。国家公務員や地方公務員の自発的な協力は、この計画の開始にあたって欠くべからざる重要性を持っていた。

参加者

この会議は大夕張に於て1977年6月17日より23日まで開催された。この会議に280名のコンサルタントが参加した。その中の220名は地域からの参加者であった。850名以上の地域住民が開会と閉会の祝宴に出席する事により、また大夕張の生活状況などの重要な情報をもたらすことによって会議に直接参加した。外部からのコンサルタントはガーナ・インド・パキスタン・フィンランド・オーストラリア・ホンコン・シンガポール・カナダ・アメリカを含む9ヶ国を代表していた。外部からのコンサルタントは商業・工業・住宅土木建築・健康管理・青少年教育・語学・グラフィックデザイン・体育指導・言語障害治療・写真術・室内装飾・銀行業・経営管理といった専門職の領域における民間と公共の両方からの代表者であった。英語の教師や通訳も各自の専門を提供した。850名の参加者の多くは今後も引き続き援助と支援を送ることを約束した。外部からのコンサルタントは、大夕張開発のための重要な分野で支援するために、再び訪れることを約束した。地域住民は普通教育、成人教育、小企業、鉱業、地域サービス、郵便管理事務、家庭管理、健康、食品のサービスの分野からの代表者であった。地元の官公部門の人達は、教育、健康、林業、商業、工業の分野において精力的に参加した。

意 図

この種々雑多な専門を持つコンサルタントの団は、地域社会再構成の方法を用いることによって、統一された調査団として行動した。最初にコンサルタントは大夕張の人々の「具体的未来像」を図表化した。第二に、その未来像達成を妨げている「隠れた問題点」を探し出しはっきりさせた。第三に、それらの問題点を効果的に解決してゆくための全体に亘る一連の「実際の提案」を立案した。第四に、その提案が実現されるべく一連の「実践方法」が創り出された。最後に、「実践体系」が適用されるような必要な「実施プログラム」を選び出した。コンサルタントはチームごとの住民面接訪問と、資源調査と、ワークショップと集められた膨大なデータと、チームの報告を会議の共同報告書にまとめ上げる全体会議とに時間を費した。この会議の目的は、この計画の進展を加速し、この地域社会に強い影響を与えることによって、大夕張の住民を援けることであった。

影 響

地域の指導者達が運営委員会を構成することによって大夕張の住民が实际的にこの計画に参加することになった。運営委員会の人々は道及び市当局と団体役員に

影 響

働きかけてこの計画の促進を助け、参加者の要求に応じたプランを調整・作成した。その結果として、この一週間に 850 名以上の住民が参加した。午前中コンサルタントが会場に着く前や帰った後、大夕張の住民はテーブルや椅子を配置したり、食事の支度をしたり、乗物の手配をしたり、全住民にその日した仕事の報告を配布した。公衆浴場（銭湯）の営業時間でさえも会議進行スケジュールに合わせて、延長された。住民は思いの外一行を受け入れてくれ、大夕張についてのさまざまな質問にも快く答えてくれた。会議の最終日の祝賀会は、この計画への住民参加を示す重要なできごとであった。小学生たちは三菱ホールの階段に集まり、合唱で参加者を迎えた。民謡踊りの一座の歌手達は集まった 400 人の出席者を楽しませた。地域のある有力な指導者は次のように言っている「私達は世界の事を知り、現在私達がかかえているのと同じ問題と、多くの地域社会が、苦闘している事を知りました。私達は 5 つのチームからの報告を聞き、そこに記されている事は全て実現されるにちがいないと信じます。私達は全面的に参加する事をお約束します。」地域住民と外部からの参加者が、大鼓の周りを回りながら、一緒になって民謡にあわせ踊ったことによって、この決断が強力に象徴された。大夕張にやって来たあるコンサルタントは、その週の行事に深く動かされた。東京から来た実業家達は会議の結果に感激して、この計画を助ける為、大夕張にもう一度来る事を約束した。また、会議を訪れた青年商工会議所の人達は、全面的に協力する事を約束した。ある一人の実業家は協力の印として、大夕張の最初のパンフレットに対する依頼を一日で仕上げ、しかも無料で印刷することを約束してくれた。大夕張計画を他にも広く応用する事については、出席した知事代理の言葉が最も適切な表現だと思われる。「北海道には大夕張と同じような状況にある町が 40 ケ所もある。ここで起こる事柄は、それらの町に対する政府の将来の政策に疑いもなく影響を与える事でしよう。」会議の後、ある市議員は会議期間中の強い印象を次のような詩に創った。『ティミ（今は廃坑になって人は住んでいないが、石炭が最初に発見された土地の名）から昇る太陽は灰色だった。夕張岳から昇る太陽は明るい太陽であることを望む。』

実 行

会議に引続いてその後やらなければならない仕事は、この資料の中に実践方法の実施を開始することである。まず第一に、地元の指導者や会議に参加した大夕張の住民や、他の関心を持つ人々が集まってこのプログラムを作るために定期的な集会を持つことである。第二に、この計画の主要な部分に責任をとることになる町の人々のために、特別な一連の訓練を開始することである。第三に、この計画のすべての面について地元民のアイデアを集めることが引続き必要であろう。第四に、この計画の開始には、官庁や自治体の関係者との関係を絶えず保ち、また拡げていくことが必要となるであろうし、また日本の実業界からの支持を開発す

ることが必要となるであろう。最後に、計画を開始するには、ICAのスタッフが、その地域に在住して訓練を開始し、またその地区全体に通用するような徴を起こす推進エネルギーを維持することが必要である。

Ⅲ

前 提 条 件

形 成

事実上、いかなる地域社会でも地域・人間開発計画を必要とするような要素をもっているものである。過去 20 年間世界各地の農村や都会や郊外での ICA の活動によって確かめられたことは、地域社会が存在する所であればどこでも、創造的な社会変化を期しており、また実際にその必要性があるという事である。地域・人間開発計画の形成にあたって、参考となる 5 つの指針がある。第一に、この計画はどんな地域社会でも通用する総合開発の模範実証であるという理解に従って、地域社会の選択がなされなければならない。交通の便の良いところが計画の場所として選ばれた時に、計画の模範実証の可能性が最大となる。非常に異った状況の中で効果的な社会的方法を使うことは、どんな地域的状況でも開発の可能性があるのであることを実証する。第二に、明白な希望の欠如と、地域社会の計画の欠如とで特徴づけられているような所が計画の行なわれる可能性を持つ。誰の眼にも明らかな絶望の中でこの計画を開始することは、人間が必要としているものに取り組んで行くことの可能性を劇的にあらわす。第三に、計画の総合性と深さを出すための開発の社会、経済両面の配慮が必要である。他の面の擬性において一つの面だけが強調されると表面的な社会的変化しか得られない。第四に、人間開発計画の企画にあたっては、地元と又地元外との両方の視点が必要である。地元内と外の視点が創造的に相互作用する時に計画が、地域に根ざした信憑性をもちしかも狭量ではないものとなるのである。第五に、地理的に広い地域でこのような計画が組織的に再生産されるためにはどうすればうまく行くかを初めから考えておく必要がある。パイロット計画は他の場所で真似して行なわれる計画の手本となり、それらの計画のための人材訓練基地として機能するためにも、計画の加速が必要となる。

経済面

地域レベルでの効果的な経済開発は次の五つの原則にかかっている。第一に、地域社会は、経済的に自足的で自立した実体とみなさなければならない。このような視点を欠いた経済開発の試みは、継続困難である。第二に、地域社会内への金銭の流入増加の計画が開発される必要がある。これは地域外で販売される原料資源や商品の生産を増進すること、地元住民を雇用すること、地域外の買手を引き

経済面

つけること、借入金をしたり、融資を受けられる範囲を拡げること、公共融資金の効果的適用また或る場合には特別の補助金や物資、奉仕活動の寄付を要請すること、によって可能になる。第三に、外から入って来た資本はできるだけ長く地域社会内で保持されねばならない。これは、消費される物資やサービスをできるだけ地元で生産すること、地元産業や商業を伸張させること、地元での特産の技術を創り出すことによって可能になる。第四に、注入され保有されている資金を、地域経済単位の中で速やかにまた継続的に回転しなければならない。これは最も重要な点で、なぜなら貨幣は地域外で使われる前に地域内で何度も使われる必要があるからである。第五に、その地域社会は、それ自身の経済力を強めなければならないが、地域外の地方、道、国、国際的なレベルでの経済的現実とも調和を保って機能しなければならない。

社会面

社会開発の領域では五つの基本的指針がある。第一に、この計画は、明確に境界線を引いた焦点地区を持つ必要がある。このことによって取扱いに大きすぎない社会的単位に精力を集中し、そのことによって努力の無駄使いを防ぐことができる。この、地域を明確に区分した考え方は地域社会の一体化に役立つ。第二に、地域社会内のすべての問題が同時に取り上げられることである。地域社会の生活は複雑に相互に関係しているので、不完全な取り上げ方は必ず失敗する。第三に、すべての社会・経済面での「隠れた問題点」の底にある人間の心の深みにある問題が識別され、取り扱われる。このことが起ると、今までは不可能と思い込んでいた領域で効果的に取り組む可能性を理解するようになる。第四に、地域社会再建という課題にあらゆる社会層、年齢層の人が参加するように特別な努力がなされなければならない。最後に、地域社会の努力を動員し、地域社会の根本的変容を起こさせる鍵を握るのは、社会的シンボルの活用である。力強いシンボルは、この計画を実施していく上でのく日もくる日も実際的な仕事をやって行く中で共通の努力をやっているのだという自覚の基礎になる。このようにして、それらのシンボルによって社会全体が絶望に陥いるか、創造の仕事にたづさわって行くかという差があらわれてくる。

実 施

地域・人間開発の実現計画には実施の効果を上げる援護体制を樹立するために五つの指針がある。第一に、社会の官公部門と民間部門の協力が必要である。コンサルタントとしてサービスする形や金銭的、物質的援助という形でこれらの両部門が連繫協力して、計画の特別な部方ばかりでなく計画全体を継続的に支持する必要がある。第二に、この計画のすべてのプログラムの実施に当っては、当初から地域住民の多数の参加が必要である。地域社会の開発がなされようとする場合に、この役割は他の人達によって代行されないものである。第三に、指導体制

実 施

が確立するまでは、一定期間コンサルタントとしての文化事業協会スタッフがその地域に止まって支持する必要がある。実際的方法の訓練によって、地域・人間開発事業にたずさわろうとする地域社会の決意が維持される。第四に、すべての実施への努力を協調させ、統一された方向へと推進していくことを確実にするために、社会経済開発プログラムを監督する実行委員達が必要とされる。これらの人達はいろいろな形態をとることが出来るが、しかしいつも地域共同体全体のあらゆる断面を代表し、そのことによって6～12ヶ月間内にあらゆるプログラム分野で効果的な結果をおさめるために必要な強力な協力体制を築き上げるのである。第五に指導者訓練とプログラム実施の促進と強化は数年以上に亘るものであるが、社会経済開発の劇的ないくつかの変化が最初の一年間に起る必要がある。これらは包括的な計画が実施できたことを実証することになり、それによって着実に地元民の参加の輪を広げ、人々を動機づけるのに役立つ。これらは効果的開発の指標となる。

Ⅳ

適 用

報告書

本報告書は会議の結果を具体的に示したものである。それはこの調査の結果を反映し且つ説明を加えて書かれている。序説（この報告書の序文）は本会議の要約である。この報告書は5日間の会議プログラム構成を決めている5つの段階に従って、5つの大項目に分けて書かれている。第1項目では大夕張の住民がそれに従って生きている「具体的未来像」が述べられている。第2項目ではこの地域社会での人間開発の障害となっている「隠れた問題点」が述べられている。第3項目では識別された問題点に光を当てて、今後どのように対処してゆくかというモデルとなるべく「実際の提案」が述べられている。第4項目は、社会変革着手に必要な実際の行動に関する「実践体系」について述べている。第5項目では、実践方法に焦点を当て、同時に社会的経済的開発計画の全局面を同時にスタートさせる「実施プログラム」が書かれている。跋文では、計画のための資金繰り、プログラム計画、スタッフに必要なこと、模倣可能性とその実施手順について述べられている。

実用性

この要約報告は高度に実用的な道具となり得るよう意図されている。大夕張の人々が自分達の地域社会を再形成するという課題へ向って創造的に努力と関心を集中した調査（会議）の結果を要約している。従って、この報告書は住民が、自分

実用性

達の地域社会の将来について実際的な決定に参加しようという決断を象徴しており、従ってそのことによって、計画の実現にとって必要な動機付けをするのに役立つ。この報告書はまた、総合的な地域社会再構成の諸原理や諸方法に地元の指導者を急速に訓練する教育的道具としても役に立つであろう。各項目の最初の数節は、会議のその段階の意図と過程を説明している。それに続く数節は、各段階の実際的な結果について論じている。各項目には全体を概観するのに便利で、記載の議論の特徴点を把みやすいようにするため、すくなくとも一つのまとめの図表が入っている。最後に、この報告書は大々張で仕事をする人にも、地域・人間開発計画を他のところで真似してやってみようという人達にも、手引書として役に立つようになっている。

第一部

具体的未来像

I

未来像

この会議の最初の仕事は、大夕張の人々が抱いている実地的な未来像に具体性を持たせることにあった。そうした未来像は、どの人々にとっても完全に明白ではあり得ない。未来像は人々の持っている希望、憧れ、苛ら立ち、願望といったものを通して形づくられるものである。従って、人々にまつわる話や、社会構造の中にかくれていて、生活様式、シンボル、夢によって僅かに表に出てくるにすぎない。これら全ての要素は、人々の現在と未来のあり方の一部なのである。このような未来像は、最初は意識されないにしても、地域社会の態度や運命を実は表わしているのである。実地的な未来像が明白な形をとり、地域社会がそれをはっきり認識する時はじめて、地域社会の発展が始動するのである。この未来像を決められた方式に表わし具体化する過程に時間がかかるのは、奥深くひそむ本質を未来像そのものが元々持っているからである。どの社会も独力では、自ら未来像を把握できないという事実からも説明されるだろう。大夕張の人々が持っている主観性と、外からやってきたコンサルタントの客観性が出会うところではじめて、地域社会の具体的未来像が形を取り始めたのであった。

過 程

地域の未来像をはっきりさせるために、コンサルタントは5つのチームに別れ地域社会全体と親しくなりつつ、まる一日を野外活動に費した。全体的な展望に加えて、各チームは、地域生活のいろいろな様相を、農業、商工業、サービス、社会開発、教育の各部門に分化し、専門的な調査をする役割を果たすことになった。全チームが村全域にわたって、住民と個別に話をし、農場、山のふもとを訪れ、地域の施設を視察し、住民の家庭では客として迎えられた。このような活動によって、コンサルタント達は、直接又は間接に土地の人々の殆んど全てと接触を持った。ついで、コンサルタント達が出した地域社会個有の希望、欲求についての

報告を交換するため、ワークショップを各チームが主催した。最終的に、5つのチームから104個のデータが提出され、別表の基本分類に整理された。第1図は、大夕張の住民が理解できる形になるよう、具体的未来像を客観的なデータで表わしたものである。この図式を使うことで、会議の次の段階では、内在する問題点を見つけだしていくことが可能となった。

結 果

この具体的未来像図表(表-1)は、会議の第一段階における結果である。この3つの主題は、大夕張の人々の多岐にわたる未来像を示している。A「経済基盤回復に向けて」は、新産業、あるいは天然資源と人材の最も効果的な利用法を住民が必要と感じていることを示すものである。B「建築物の建設及び再建設に向けて」は、現存する建物や施設の修復や拡張に対する希望を示している。C「社会的諸形態再構成に向けて」は、地域社会生活の経済的、社会的分野に、すべての人々が、積極的に参加できるような、実質的な形態を、人々が強く望んでいることを示している。この図表はさらに26の項目を含む7つのカテゴリーに分けられる。この項目は、さらに、この地域の具体的未来像の特性を示す104の小項目に分かれている。この小項目は人々のもつ未来像の本質を形成している。7つのカテゴリーのうち最初の3つは経済的基盤に関連し、新しい事業、すなわち産業開発、農業開発、観光開発などの発展を喚起するものである。中央のカテゴリーは、建築物の建設及び再建設に関するものである。最後の3つのカテゴリーは、社会的発展、すなわち基本的サービス、社会的諸活動、——教育機構に重点をおいている。

Ⅱ

自 立

大夕張の人々は経済的な生活基盤をとりもどしたいと、切に希望している。この討論を通じて、住民は新しい産業の導入、新鉱山の開設、公共施設の設置などの希望を述べた。商業的な面では、新しい産業は商業施設の改良や商品目の増加をもたらし、その結果また、新しい産業が生まれると考えられる。農業的な面では、新しい作物の栽培や、土壌の改良、大夕張メロンのための用地を確保することで、農業活動が拡張されることが求められている。人々はまた、家畜の飼育や放牧場、植樹林や苗木畑を作ったり、夕張岳に生育する山菜の利用等で、協同の農業拡張を望んでいる。観光面では、山や湖や川を中心とする、年中利用できる大規模な観光地を開発することが大きな夢であり、具体的には、スキーリフトやゲレンデのある、設備の整ったロッジやハイキングコース、貸ボート、山小屋、キャンプ場などの設置が望まれている。これらの計画にともない、新しいホテルレストラン、レジャー用品店、温泉等の補助サービスがあげられている。

再 建

地域住民は、現存する建物や公共施設が再建され、あるいは増築され、現在の生活が向上されるのを望んでいる。特に住民は、住宅家屋の改修、また、地域内外の連絡、水資源の利用、町の外観等の改善の必要性を感じている。モデルハウスの建築、一区画への家屋の集約、土地の個人所有の促進、建築物改築のための政府機関からの援助を望んでいる。また、隣接地域との連絡をよくするために、現在使用している高速道路の改良、完成を望んでいる。上流ダム建設の増加、よく整備された灌漑システムの建設、適切な水位調節の計画、それに養魚場の設置が水資源の最大限の利用の手段として討議された。住民は、総合都市計画の進展、環境保護計画、風光明媚な場所の設計計画を望んでいる。観光客向けの公園の建設は、地域の自然美をより美しいものにし、観光客をひきつけ、当地の人口を増加させるであろう。

地域福祉

大夕張の人々は、この地域の再開発は、現存する可能性を広げ、いかすような社会的諸形態の再構成にかかっていると感じており、基本的サービス、社会的諸活動、教育機関は、その重要な要素と考えられる。基本的サービスとしては、医療配慮の改善、公共交通機関の拡大、特に冬期における道路状態の維持対策、衛生、消防設備などの地域社会諸サービスの質的向上が求められている。地域全体の社会的諸活動としては、文化行事の実施、レクリエーションセンターの開発、老人の参加できる組織や青少年プログラムの開発などが求められている。また住民は、教育機関が適切であれば、地域の若者達は、将来に役立つように十分準備ができるだろうと期待している。地元の保育園の充実、現在の学校組織と協力して行なう青少年活動、及び成人教育の機会の提供によって、地域住民が必要とする技術や、さらに広い知識を得られると考えられる。

Aー経済基盤回復に向けて				Bー 建築物の建設及び 再建設に向けて		Cー社会的諸形態再構成に向けて			
根本的な自立				地域の下部構造		地域福祉			
産業開発	農業開発	観光開発	産業開発	再建設に向けて		基本的サービス	社会的諸活動	教育機構	
新産業の確立	実現可能な計画	大タ張メロン	スキーリゾート	再住宅編家の新築	モデルハウス	医療配慮の改善	文化行事の実施	良い映画 新しい祭 演劇グループ 郷土史料館の拡充 体育・運動の施設 暖房設備の増設 屋外施設 屋内温水プール	行政の援助 カリキュラム開発 話設備の充実 父兄参加
	各種手工業	土壌改良	スキーゲレンデ		建設用地の整備				
	新鉱業	新しい作物	スキーロッジ		所有権計画				
	雇用安定	農産物の多様化	ハイキングコース		再建の援助				
公共施設の開設	農民の生活保障	農業共同体	貸ボート	高速道路の伸長	高速道路の完成	公共機関の拡大	リクリエーションセンターの開発	青少年訓練の強化	学校の移転 教室の暖房完備 責任者の養成 高度教育への機会
	価格統制	漁業	釣り		路面の補修				
	資源利用権	リース	アイススケートリンク		林間道				
	共同農場	水泳場	水泳場		路面状態の維持				
商業の振張	家畜の飼育	家畜の増殖	リクリエーション施設の建設	水の極限化	上流ダム	道路の改善	老人参加の組織化	成人教育の提供	農業調査 職業訓練校 職業技術 教員の訓練
	放牧場	放牧場	施設の種類増加		灌漑システム				
	その他の飼育	家畜の飼育	温泉		水コントロール				
	牛の実験的飼育	牛の実験的飼育	キャンプ場		養魚場				
商業の振張	商業用作物の栽培	早熟性樹木	観光者向けサービスの開業	環境風致の企画	市街計画	地域社会諸サービスの質的向上	青少年プログラムの開発	成人教育の提供	職業訓練校 職業技術 教員の訓練
	花の栽培	花の栽培	サービスの開業		自然保護区域				
	タ張岳特産物	タ張岳特産物	観光者向けサービスの開業		風光明媚な場所				
	老人菜園	老人菜園	観光者向けサービスの開業		観光者向け公園				

第二部

隠れた問題点

問題点

この会議の2番目の仕事は、大々張の根本的な社会問題を見い出すことにあった。この「問題点」という言葉は、ここでは、明白な問題そのものを指しているのではなく、「具体的未来像」の障害となる隠れた問題のことを指している。問題は、相対的な、目には見えない、深い歴史の流れと密接に関連しているため、はっきりと認識するのは難しい。問題点を直接見い出すことは困難であるが、地域の人々の「具体的未来像」の障害となっているものをはっきりさせることによって間接的に見い出しうるものである。歴史的傾向を客観的に考慮しながら、障害となっているもの全体を見通すことで隠れた問題点というものは明らかになってくる。もし、隠れた問題点をほんのわずかでも見い出し得なければ、社会改革の計画の成功はおぼつかない。効果的な社会的・経済的開発というものは「具体的未来像」に表われた明白な、或いは言外に示された目標を直截なやり方で達成しようと試みることで起こるものではない。社会的変革はむしろ「具体的未来像」に対する隠れた障害となっているものと取り組む「実際の提案」をつくり出すことで起こってくるものである。こうした理由から、この問題点というものは、否定的な意味をもつものではなく、むしろ有意義な創造性のにない手となるものである。

過程

こうした問題点に関係のある地域のデータを集めるため、コンサルタントはそれぞれの分野でチーム別に仕事を続けた。まずはじめに、「具体的未来像」（第1表）全体にわたっての障害を発見することから着手し、次に、それぞれのチームが割り当てられた「未来像」の分野に集中して仕事を進めていった。この方法は、チームの総合的分析に総括的内容と深さの両方の価値を与えることとなった。全体会議の初期の話し合いで話題となった深い歴史的傾向を考慮にいれながら、チームは、客観的にみて、現実的希望の障害となっているものを見つけ出

すために、実地調査から明らかになった、主要な焦燥感の原因を見い出すことにつとめた。現地からの帰途、それぞれのチームは、そのデーターをまとめ、「未来像」全体にわたっての障害の順位表を作った。129のデーターが大夕張の入々が直面している9つの隠れた問題として1つにまとめあげられた。

第2表に示されているように、9つの根本的な問題点が明らかになった。コンサルタントが大夕張で見出した、特殊な障害や焦燥の原因、或は、社会的、経済的障害がこれら9つの問題点に含まれている。この表は重要な順に左から右へ読んでいくよう構成されており、各欄の項目が多いほど重要である。この整理の方法のみが、主要な問題点を識別するための唯一の判定基準ではない。しかしながら、現在ある問題点を全体的に並べてみることは、有効な方法である。図の下部は各欄の項目の数を示し、3つの問題点の主要な分野を示す。これらの数字は問題点を分析する際の参考となる。この表全体では、134項目ある。最初の3つの問題点（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）を1つのグループとしてみた場合、これには71項目あり、全体の53％を占めている。次の3つの問題点（Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ）は43項目あり、全体の32％を占めている。最後の3つの問題点（Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ）は20項目あり、全体の15％を占めている。この最初の問題のグループは、経済拡張、及び、基本的サービスの実際的な改善に方向を示す計画作成の方法を作りあげることが必要なことを、明白に表わしている。第2グループは、適切な地域の人々の訓練方法と、資源の現実的な利用方法に方向を示す新しい地域のイメージが必要であることを示している。最後のグループは、地域の人々が一致団結し、農業開発を行なうと共に、大夕張の外観を改善する必要があることを示している。これら9つの問題点は、次にくる「提案」のパートのための基礎を提供するものである。次のページ以降に、各問題点に対する簡潔な報告が記されている。

結 果

隠れた問題点表

1977年6月
議会
第2表

1. 方向のさだまらない 経済基盤の拡大	2. 適切な地域振興計画の 手順	3. 基本的サービスの 改善に多大の 費用がいく	4. 地域の話題に おける ショッキングな変化	5. 地域社会の 訓練計画が 叫ばれていない	6. 資源利用についての 狭い視野	7. まとまりのない 社会的活動	8. 魅力ある生活 環境	9. 農業開発の努力が ばらばらに なされている事
保育園の設備不足 保育児を制限する高い保育費 経済的基盤の消失 経済的育成力に対する懸念 暖房装置の不十分な校舎 狭い就職への機会 資金源の未確定 魅力のない企業誘致 少ない道路予算 限られている商品入手 労働力の減少 限られている資金入手 きびしい市場競走 不十分なサービス体制 開発のための資金不足 未開発の観光資源 未発達なレジャー設備 低い開発費 財政予算案の欠如 難しい私財投資 資金の融通不足 低収益の営利農業 労働者の離村 時間のかかる手続 低収益の農業経営 画面的資金援助の要請	未熟な地域の指導力 指導者の責任感の欠如 冬の限られた交流 行政地域間の連絡不徹底 屋根の雪おろし問題 共同責任への無関心 事業調整の不完全さ 住民不在の計画決定方法 未調整の共同計画 地域社会の無気力 放置された老朽家屋 地域社会の必要物の不明 不十分な医療予算 限られた除雪場所 未決定の必要共同施設 不十分な除雪設備 家屋の散在 非現実的観光計画 地域の意志の未決定 長続きしない社会計画 不適当な企業誘致策 少ない話し合いの機会 試験的農業の不足	保育園通園のバスがない バス料金が高い 最低の道路工事技術 費用のかかる中学校移転 高速道路建設の遅延 高くつく通学費 負担になる除雪費 常駐医の不在 少ない除雪作業 困難な除雪作業 不完全な道路網 ごみ処理トラックの不足 高くつく交通費 高くつくくみ取り費 地域外にある私道所有権 不公平な衛生設備 遅れた下水道設備 不完全な医療施設 高くつく輸送コスト 凍りつく配管 高くつく暖房諸経費 もうからない運送業	地域の未来展望の欠如 悲観的な地域イメージ 就学児童の減少 保障のない所有財産 住民の無気力 示業手の老人問題 炭坑代替産業の未決定 凍結状態の未来展望 地域にある挫折感 不安な産業の見通し 祝福されない町の功労者達 抗夫の不安な将来 衰える公共のイメージ 経済的自立の未確立 退職後の脱力感 無計画な地域教育	予想外の保育園の拡大 農業訓練への無関心 不十分な成人教育 未解決の中学校移転他 専門職の地域外への依存 中学校が遠い 不十分な保育園設備 知られていない訓練の効用 評価の低い高等教育 職業再訓練の場の欠如 限られた地域教育 実務教育が受けられない 若者養成の未遂 未発達な専門技術 青少年育成の欠如	利用されていない地域資源 不安定な水位 魚釣り用の魚が少い 未開発の地域資源 スケートに向きない湖水 未解決の法的問題 困難な土地の再利用 説得力のない土地利用法 個人主義的農民 利用可能な少ない土地 利用されていない山菜 悲観的な産業の見通し	公共施設の欠如 老人達の視野の狭さ ボランティア活動の欠如 課外活動の老坑夫 孤立化した地域活動 小分化した地域活動 地域の変貌 損われた社会基盤 地域の祭りの欠如	魅力のない地域像 未決定の環境計画 美化されていない河川敷 下水施設の不備 冬の期の道路の悪条件 限られた温泉物資 荒れた地域の景観	限られた農業拡張 不十分な山菜の調査 農地の散在 孤立した農業経営
26	23	22	16	15	12	9	7	4
I			II			III		

問題点 I

方向の定まらない経済基盤の拡大

第1の問題点は、地域社会の経済的基盤の拡大にある。世界中の至るところで地域社会は、地域の経済開発を通じて過密化した都市地区の問題を軽減するよう要求されている。大夕張では80年間経済の基礎は、石炭の採掘であった。鉱山の閉鎖とともに、最初の2ヶ月で4000の人々が大夕張地区を離れていった。2年後には、残された人々はたったの2700人となり、そのうち300人は近くにある南部の鉱山で働いている。町を荒廃するにまかすよりも、新しい産業と商業のもとで、地域社会の再建に踏み出そうと、大部分の住民は決意している。そこで農業と林業が、産業の基礎として新たに注目されている。農業から利益を得ることは難しいとされてきた。それは農産物が農民から多くの手を経て消費者に渡ることに、新しい技術を得るのに時間がかかるからである。地域の市場は以前より狭くなっており、地域外の市場は、競争が激しく力が及ばない。植林を含め、林業については政府が行っており、将来有望の資源となろう。しかし、現在この分野の技術をもっている人は少い。閉山の前、個々の企業家によって資本が集められたが将来の見通しがはっきりしないため資金投資の意欲を失ってしまった。多くの人々は、唯一の解決法は、他の地域で職を捜し商売をすることだと感じている。外部からの投資を得ようとしても円滑な経済活動及び安心できる社会生活を行なうことのできる基本的な施設が、不十分であると思われる。サービス機能は低下しており、また学校のような公共的建物の暖房設備などもはなはだ貧弱である。開発への推進力は停止し、町の収入は低下しているのである。資金流入の端緒を得ることを初めとして、実行可能な経済計画を企画するのでなければ大夕張が世界の人々と手を取りあって、独自の貢献することのできる自治組織として生き残ることはできないであろう。

問題点 II

適切でない地域振興計画の手順

第2の問題点は、地域振興計画の手順の中に見られる。世界各国で社会開発計画は、地域社会の当面の要求や長期的見通しにその地域が対処することを可能にしている。大夕張では、市民生活の維持は、町内会すなわち場所的に隣合った住民の組織を通じて行なわれている。町のレベルでは、総合開発委員会がより

大きな要求に対応している。以前の計画では、社会的不安をよび起すような誤った出発点に立っていた。鉾山会社が、一連の他の産業を町の周囲に設けようと計画した。そして若干の木材加工工場が設立されたがそれ以上は続かなかった。レクリエーション施設を伴った湖の総合的開発計画がたてられたが、下流の農地を灌漑するのに多量の水が必要とされているため実行が不可能であった。この失敗で明らかになったのは、町の指導者自身が新たな経済を創造すべきであるということであった。彼らは有能な人々であるが、このような役目は初めてであると感じている。町の発展に対する全ての責任は個々の住民にあり、住民の参加によって地域社会の要求を事前に評価し、医療、住宅、除雪、農業及び社会生活などにおいて実現していくことが必要なのである。意志決定の範囲は、一見、不可能な問題を含む複雑な領域にまで広がってきているが、効果的な住民全体の意見を得る方法へのより多くの参加は得られていない。定期的な会合及び町内会での討議は簡単には行なわれない。完全な住民全体の意見がなければ、住民の要求や願いを実現しようとしても、効果が余り期待できない。大夕張の市民が将来の見通しの上にたって効果的な方法を見出し、共に実行していくのでなければ町の経済は停滞し、かつ低下するであろう。

問題点 Ⅲ

基本的サービスの改善に多大の費用がいる

第3の問題点は大夕張における基本的サービスの提供という点にある。世界は豊かになり、技術が発達したので家庭用や工業用の財貨、サービスが地域社会に十分提供できるようになってきている。大夕張では、12,000の人口の規模に必要な大部分の財貨やサービスが提供されてきた。これを少い人口のものに切りかえるという重大な変化に直面している。遠方にある中学校を再配置し中央へ集中することは、費用からみても不可能である。1日たった15回のバスの発着があり、札幌直行は3回だけである。乗客が少いので運賃は高く、運行費用も増大している。鉄道線路はすっかりはずされてしまったので、新しい産業ができて輸送費は高くつくであろう。自動車道路が2年前に舗装され、市は交通の動脈から除雪することを始めた。しかし細い通りから除雪することは大仕事である。年間雪積量18mは平屋の建物をおおいつくす。現在、自動車道路は大夕張で終わっているが、将来北部に隣接する芦別にまで延長されることになっている。建設上の諸問題や財政が窮迫しているためにこの工事は進んでいない。完成は1982年と予定されている。道路は外部事業所に所有され、維持されているので住民は

除雪作業や道路舗装を共同でやっていない。採鉱期間中の医療はベッド150床の会社病院により行なわれていたが、閉山後貧弱な設備の診療所に縮小された。開業医師は、南部から1週間に2度やってくる。下水、ゴミ処理に関しては、その当時としては、立派な設備であったが今では新居住者をひきつける邪魔になっている。大夕張はますます暮しくくなり、また孤立感が更に強まっている。多大の費用をかけてこれらのサービスを一新し、近代化を計らない限り、町は計画通りの発展は望めないだろう。

問題点 IV

地域の問題におけるショッキングな変化

第4の問題点は大夕張の社会的イメージである。地域の人々は今日隔離されていなかの村から工場で働ける郊外へ、へんぴな村から賑やかな都市の中心地へと移っていった。大夕張は、現在新しい経済上の役割を見つけようとしている炭坑の町である。大夕張は、50年代に栄え、設備の良い住居、良い学校、良い仕事、そして就職の機会があり、誰もが楽な生活を送っていた町であった。ところが次から次へと、5つの炭坑が閉鎖され、9,000人もの人が4年の間に町を去り、残った坑夫は最も近い炭坑、といっても7キロも離れている所にあるのに通っている。社会生活もまた根本的に変わった。かつては祝祭日が日々の苦勞から起こる地域の精神の表現手段だった。今日、その精神は未だ残っているが、いまやその表現も過去の偉大さを振り返って考えるだけになっている。かつては繁盛していた旅館も廃業したか、又は一部が住居になっている。地域住民は新しい商売と基礎産業の発展を心待ちにしている。存在する商売といえば人口3,000人位の町に見合う乾物食料品の店ぐらいで、もはやその繁栄は過去のものになっている。商人はあえて新しい事をするよりも、現在の商売だけを用心深くすることだけに精出している。実際、彼らはより一層の経済的な鋭さを要求する、新しい自治体を経験している。失われた物語の象徴は、時勢の流れに逆らうすべもなしに自分自身で生きている退職した鉱夫だ。大夕張が新しい地域のイメージから新しい社会の構成を確立するまで町の将来の発展は未だ改善されず、未解決のままの状態であるだろう。

問題点 V

地域社会の訓練計画が叫ばれていない

第5の問題点は、大夕張地域社会を発展させるために必要な技術の導入にある。20世紀の世界に於ける訓練は、雇用問題、或は社会生活問題といったような現実的な必要性との結びつきが、次第に強くなってきている。すなわち産学共同という事である。大夕張では、炭鉱の徒弟制度とは別に教育は基本的には学問的なものであり殆んど若者のためだけのものであった。炭鉱が閉山になって人口が急激に減少したため、4歳児からの保育所の入園者数は急速に減っている。小中学校は実際には生徒がいなくなったのに4つのそれぞれ独立した建物は存続している。高校は夕張市では三流とされているので自動的に大夕張の多くの若者はいくつかの業界からしめ出されている。学校とその地域の仕事との密接な結びつきがないため、若者達は更に高度な教育や職を求めて他の場所へ移って行く。残された炭鉱夫らは年配の人々で、他の職業に対する訓練を受けていないため、別な職があったとしても余りに早い時期に仕事から引退してしまうのである。新たに仕事を始めた人々は、自分達が基本的に近代的な経営法や商売の技術を欠いているということに気づいている。再訓練の機会はないか、或は今有る求職には役に立たないものばかりであるかのどちらかである。実際、特別な新技術を必要とするような実質的な産業は、ここには殆んどないのである。大夕張は各年齢層に対する実質的技術指導計画を持たなければならない。

問題点 VI

資源利用についての狭い視野

第6の問題点は、大夕張の自然利用にある。今日、世界の人々は地球上の資源の有効な利用及び再利用を心がけている。4年前まで、大夕張は石炭を産出するためにのみ存在していたのであった。大夕張に於いて他の鉱物資源の採掘は試られたことがなかった。住宅を取り払い、現在は空地となっている広大な土地がある。100ヘクタール以上の露天掘り跡の草地が営林署に返還された。丘陵地の森林は土地の肥沃さを証明している。シュパロ川上流のこの谷あいの土地の巾は広くはないが農地に適した水もある。鉱業が優先されている限り農民達はこの地域では第二義的なものであった。今日、大夕張に住む何世帯かの農家が新しい農

業の中核となっている。土地が営林署の管轄となっているため、経済的可能性を秘めながら未利用地となっている。しかしながら農民達には水利権が必要である。いかなる工業を始めるにしても水力、土地及び他のサービスが必要となる。山々は、様々な目的に利用されている木が自生している。だが新しい事業に対して法的な手続きが余りにも複雑で時間がかかりすぎる。数年来、夕張市及び大夕張の人達は、南大夕張にあるダム湖が風光明媚で観光地としての可能性があると考えてきた。湖をレクリエーション場として開発する計画は、夏の観光シーズンである7～8月に下流の稲作のために湖の水位が下がるために一時中止されている。ウィンタースポーツも計画されたが湖上が降雪のためスケート等にはむかない。大夕張は社会経済性の乏しい荒地であると思われてきた。土地利用の新事業が早急に起らぬ限り、大夕張の人達は最も恵まれた経済的資源である土地の恩恵をこうむることはできぬであろう。

問題点 VII

まとまりのない社会的活動

第7の問題点は大夕張でどのように人々が組織的に助けあっているかどうかにある。どんな社会でも、福祉教育活動は、それがどの年代のためのものであるにせよ、人々をより拡大した社会へ順応させるように変ってきている。社会自体が幼老、病人、失業者救済のための組織を持っている。大夕張では、鉾山会社が各種の社会福祉を行ってきた。今日に於てさえ、光熱、健保、公共設備、住宅、浴場、交通、倉庫等が近くの会社より与えられている。4年間に11もの鉾山が閉鎖された事は、不安感をもたらし、公共的なサービスがなくなりつつあるのではないかという気持を作り出した。社会はその進むべき方向を失いそれにより地域一丸となって働くべきすべを失っているように思える。地域の慶事はなくなってゆき、実生活がもはやなくなったということでその意義もなくなった。良い学校は遠くなり、多くの通学時間と費用を要し、課外活動の時間も減少されている。町内の学校も又親達や教師達の関心が他に移って以来、社会とのつながりや課外活動を与えるのに苦勞している。鉾山労働者達は次第に大夕張の変化とともに自分の事しか考えられなくなり、その役割も減少してきた。利用のためには多額の維持費を要する無数の空洞を残して、大人達の社会生活は次第に崩壊している。社会的活動に従事する住民の復活がない限り、大夕張は急速に崩壊し他の町に併合されることになるだろう。

問題点 VIII

魅力うすい生活環境

第8の問題点は大夕張が外見的にどう見えるかという事にある。自然の美しさや地域の環境を保存するという事は、今後とりくまなければならない課題である。大夕張は壮大な山々、清流や川、生き生きした湖等に囲まれている。みにくい倒れかかっている廃屋、ぼうぼうと草の繁った線路の跡、荒れた駅、文字通り倒れかかっている病院の建物、そのままに残されているポタ山、ゴミ、こうした見苦しい風景が本来の谷の美しさを損っている。かつて多くの家が建っていたところは空地になっている。多くの建物はとり壊され、そうした土地を建物を建てるために使っている人は非常に少い。こういった事が今までの状況であり、また今後ともそうであろうと思われる。毎年、雪が溶けるにつれて、河川敷は浸食され、河川を泥沼のようにする。冬には道路は積み上げられた雪で狭くなり、通行の障害となっている。こうした外観的な魅力のなさ故に、人々は買い物や仕事に町の外に出て行く事になるし、又他からの人々も遊びに来る気がしないのである。こうして町の様相が徐々に悪くなってゆく事が、一部の人々に何をしても無駄だという気を起こさせている。この町が、こうした自然の恵みを生かし、仕事や生活のために魅力的な環境を作り出して行かなければ、大夕張の将来は、今同様に見通しの暗いものとなるであろう。

問題点 IX

農業開発の努力がばらばらになされている事

第9の問題点として大夕張の農業開発があげられる。人々が協同の利益のために力を合わせて働くことの有利さを、世界中で協同組合は立証しつつある。大夕張には家庭農園があちこちにあり、十軒余りの農家がある。しかし農家同志がお互いに競争しあい、各々の努力をお互いに打ち消す様な形になっている。同じ農協に入っているにも購入、販売、農作試験をそれぞれ独立してやっている。夕張のメロンは、昼暖く、夜は寒い所で育っているため、非常に美味しいと日本中で有名である。メロンを主作物としている所が多く、養鶏、ジャガイモ、ダイコンや他の野菜の栽培が補足として行なわれている。大夕張の農民は、灌漑用水建設時に出資していなかったため、その用水を使う水利権を持っていない。この事で大夕張の農民は、用水ダムの南部に住んでいる農民とは孤立した状態にある。大夕

張内では炭坑業の優先のために農民は他の住民から孤立している。農産物は、大夕張地域内ではなく、通常札幌等の値段のよい市場で売られる。これらの諸条件は作物の栽培期間が短いこと、作物の不作や市場での困難等の昔からの失敗と重なり合って、農民達を新しい農業技術から遠ざけている。最近の不況のおかげで4軒の農家が農業をやめ、1軒は山菜を集めて町で売るようになった。大体において、農民はお互いに助け合いも少なく、町やもっと大きな団体からの援助もないのにやっていかななくてはならないと感じている。そこでそのうち忘れ去られ不当な扱いを受けているような気になってくるのである。農民全体を地域社会に受け入れ、農地を創造的に利用する道を見出さないかぎり、農業で大夕張の経済を発展させることは不可能だ。

実 際 的 提 案 表

1977年6月
議 会 第3表

I 経 済 再 建 案			II D 建 築 土 木 案 再 興		III 社 会 再 構 成 案		
A 地 域 産 業 案 提	B 商 業 振 興 案 提	C 営 利 本 位 の 農 業 提 案			E 基 本 的 サ ー ビ ス 提 案	F 地 域 教 育 案 提	G 自 治 形 成 案
観 光 事 業 画 計 1	中 小 企 業 画 計 4	農 地 拡 張 画 計 7	建 物 建 設 画 計 10		医 療 設 備 画 計 12	職 業 技 能 画 計 15	隣 接 地 区 保 護 計 18
木 製 品 画 計 2	資 本 投 下 画 計 5	資 源 開 発 画 計 8	地 域 社 会 美 化 計 11		公 益 事 業 画 計 13	社 会 教 育 画 計 16	地 域 情 報 交 換 計 19
家 内 産 業 画 計 3	大 々 張 宣 伝 画 計 6	土 地 利 用 画 計 9			外 部 連 絡 画 計 14	幼 児 教 育 者 画 計 17	象 徴 的 生 活 計 20

I

経済再建案

経済再建案は、この地域社会の新しい商業的、産業的基盤の創設を求めるものである。この計画を实践してゆくために大夕張地域は、地域社会全体の利益となるような新しい技術の導入訓練と新しい商業的企業の設立を決定した。この種の経済再建には、3つの基本的提案が必要である。第1に要求されることは、地元での雇用機会を増大させるために、地域内に新たな産業を誘致することである。第2に各種のサービス、宣伝活動を提供することで、地域の商業の拡張を図る。これには、新しい企業設立に際しての財政的サービスと援助の保障が含まれている。第3に収入増大を図るために、農業の生産性向上を促す。それには、現在の農地を拡大し、この地域周辺で入手できる資源を開発する必要がある。これらの提案に不可欠なものは、この基礎的事業を開拓してゆこうとする地域社会住民の核である。

A
地域産業

新しい地域の産業を大夕張に誘致する事により、地域住民を雇用し、地域に収益をもたらす。この目的達成のために次の3つの計画が効果的である。第1に、観光事業計画があげられる。これによって冬期、又は夏期に観光客達が美しい自然と修復された建物にとりまかれてスポーツができるような魅力的な場所を作るための設備や計画を充実させる。第2に木製品計画。これによって製材、二次生産品、手工業製品製造などの木工業を拡張する。第3に家内産業計画。これによって手工業や食品加工保存工業を拡大し、この地区にお金が入り、地元での雇用の機会を増大させる。

B
商業振興提案

商業振興提案は、商業を振興し、現在ある店舗を拡張し、大夕張地区に旅行したり住んでみたいと思う位魅力的な町にする事を扱うものである。これには有利な商業経路を開くため、全員が協力し、町の経済を強化する事に特に重点が置かれている。中小企業計画によって町内に散在している3店舗を魅力的な場所に集め、あらゆる重要なサービスや商品がここで提供できるようにする事である。そうすればこの地区の農民に市場を提供し、商店主、及び農民が共に利益を得ることになる。ギルド制を採用することで商人達が一致協力して、入手できる限りの資源を利用できる道を開く。資本投下計画によって地域の資本源を開発し管理することを扱う大夕張宣伝計画は、この地域が居住し、働き遊ぶのにすばらしい所であるという町のイメージの創造と、人々への働きかけに重点が置かれている。

C
営利農業提案

商業本位の農業提案は大夕張の土地資源を開発して地域の経済を再興させる目的のもとに計画された。農地拡張計画により新しい土地でも穀物が収獲されるようになり商業本位の農業に従事する農民が増加することになる。老人達は農業生産の補助的役割を果たすであろう。資源開発計画では新しい原材料を得る土地をさがし、森林資源を開発し灌漑やレクリエーション用の水資源を利用する。川底の泥は農地にとって本質的に必要となる表土として大いに利用される。土地利用計画においては、農業開発と工業開発とを合わせた計画をたてる事により土地の最大生産力が確かなものとなってくる。経済生活は上記の計画を遂行していくことにより、つまり大夕張の人々の未来像の達成に貢献することにより、かつてのように活発なものになるであろう。

II

建築土木再興提案

建築土木再興提案というのは、古い施設の改善、新しい建物の建設、大夕張全体の美、つまり将来の住民のために、町を魅力的なものにすることに関連したものである。この提案をおし進める2つの主な計画は、建物の建設と町の美化である。この提案は、経済再建提案、社会再構成提案と非常に深く関連している。建物の建設計画では、新しい小企業のために、古い施設を手直しし、荒廃した住宅を一掃する。地域社会美化計画では観光施設を誘致すると共に、公共の建物や市民集会場を再建することに全力を注いでいる。

D
建造物再興

建築土木再興提案とは大夕張にある古い建築物を修繕し、又現在ある建築物を美化することを目的としたいわゆる建設運動である。建物建設計画により大夕張に企業誘致するために工場及び作業場に適した建物が再建される。こわれた家屋を取り払いモデルハウスを建設する。道路建設のようなものは住宅建設を促進させる。地域社会美化計画では必要建設経費をおさえるため奉仕活動をお願いしている。大夕張デーのような地域活動により、駅や商店街のようなところに焦点が置かれ、地域全体が改善され、又観光客やそこでの住民に対しても特に魅力的な施設が創造されることになる。

Ⅲ

社会再構成提案

すべての地域は新しい社会形態や構成を持続的に作り上げていくという責任を負っている。それらは、共有のものを見出し、地域生活や開発に責任を持って参加していく人々を集める役割を持っている。大々張は以下3つの基本的提案により、この責任を履行することになる。まず基本的サービス提案は、この地域がサービス事業、共益事業でうまく設備され、その外部との関係が将来のリーダーシップのために開発されていくということを保証するものである。地域教育提案は基本的技術にたずさわっている人々全部を訓練し、再び活気のある文化生活が出来るように図るものである。自活形成提案は互いの協力のもとで行なう会合や催しを通して、新しい一体感を作り上げていく。

E
基本的
サービス提案

20世紀の諸地域では、それぞれの地域の総合開発に重点がおかれている。基本的サービスの分野は、その重要な支えとなるべき役割を果たしているこの目的を遂げるために、3つの計画が提案されている。医療設備計画は医療サービスを改善し、総合的な医療状態にもっていくものである。共同施設計画は、公益事業やサービス業の改善された供給を確立するため炭鉱会社、市、又技術専門家などと共にその業務を遂行してゆく、公的な公益事業共同体を開発するものである。外部連絡計画は高速道路を完成させ、河川水の利用をうまく調整するために、外部との関係を確立するものである。

F
地域教育提案

20世紀の開発は地域レベルで起こっているもので、全地域住民の参加を呼びかけるものである。様々な分野での熟練したリーダーシップというものが、地域開発には不可欠である。この目的完遂のために、以下4つの計画が提案されている。まず地域教育計画は企業運営や家内産業のような人々に社会的な又、仕事に役立つ技術の訓練を提供するものである。文化教育計画は地域活動や茶華道のような課外活動に参加している全地域の人々の文化的経験の幅を広げるものである。職業技能教育計画はリーダーの役割を開発するための機会を提供するものでありたとえば、教師と両親との研究会に見られるようなものである。幼児教育者計画は保育園拡充のため奉仕活動の地域リーダーを実地に訓練するものである。

G
自活形成提案

自活形成提案は住民の必要を満たし、又、共通の未来像を作り上げるために、地域の様々な構成の開発にとり組むものである。隣接地域保護計画は地域懇談会を通して、地域のリーダーシップ開発に重点がおかれている。このような月例の

懇談会はあらゆる年齢の人々がその意見を交換し、全体としての意見を決定してゆくためにもたれる数多くの機会の例であるといえる。地元情報交換計画は週刊の新聞や公報掲示板を利用した情報交換を押し進めるものである。象徴的生活計画は地域の人々の共通の記憶を呼び起こすものである。これは胸のバッヂや標語（マーク）として表わされていく。又、大夕張の50周年記念祭は、大夕張独特の宝を祝うことを目的としたいくつかの祭典の一つといえる。

観光事業 計画 1	1. 建築物の刷新	現存する入手可能な設備を使用する
	2. 旅行者用の宿泊施設	適当な宿泊施設を増設する
	3. 季節的運営	観光客を能率的に誘致するイベントを提供する
	4. 食堂・レストランの提供	魅力的な地方色豊かなレストランを作る
木製品 計画 2	5. 新製品	地元の木製品を利用する
	6. 原材料の供給	利益の上る木製品産業を確立する
	7. 材木処理	利用可能な地元資源への投資
	8. 建築材料	地元の基本的需要を満たす
家内産業 計画 3	9. 地元の手工業	地方色豊かな独特の芸術品の発表
	10. 生花市場	地域独特の生花用植物を輸出する
	11. 食品加工	珍しい野生の産物の保存
	12. 商品包装及び梱包	地元の産物の価値を高める

I. 経済再建案

B. 商業振興提案

ICA コンサルタント

第3B表

中 小 企 業 計 画 4	13. ショッピングセンター	小売市場の拡大
	14. 農家の市場	地元の貨幣の流通を促進する
	15. 土産物店	外部からの魅力的な財政援助
	16. 店舗の改善	現在ある商店街の改善
資 本 投 資 計 画 5	17. 銀行サービス完備	安定した経済的基盤の確立
	18. 計画のための資金調達	商業振興のための資金を調達する
	19. 地域の基金	地域への投資資金を調達する
	20. 資金の調整	資金を最大限に活用できるようにする
大 夕 張 宣 伝 計 画 6	21. 宣伝を促進する	広域にわたる宣伝活動
	22. 大夕張青年商工会議所	新しい指導体制の確立
	23. 経済協議	お互いの経済的利益を保証する
	24. 観光地としてのテーマ	景観統一を計る

農地拡張 計画 7	25. 酪農牧畜農業	新しい種類の家畜
	26. 農場経営	生産高を最大限に伸ばす
	27. 商品としての植物	地元の植木の市場を開拓する
	28. 魚の養殖	市場に出せる魚種を飼育する
資源開発 計画 8	29. 水資源	未利用資源の開発
	30. 植林	出来るだけ成長の早い木を植林する
	31. 山の産物	地元の山菜を栽培する
	32. 鉱物資源の調査	未発見の鉱床がないか調査する
土地利用 計画 9	33. 専門技術者の協力	専門技術者の助言忠告が必要である
	34. 土地利用計画	将来の発展計画を立てる
	35. ガス電気等の設置	いろいろな施設を整備する
	36. 地域住民の意見の尊重	地域住民の合意のもとで土地開発を行う

建物建設 計画 10	37. 廃材の除去	建築材料に使えるものを利用する
	38. 住居の新築	住みよい住居を新築する
	39. 建物の復旧	住居投資計画を助成する
	40. 公共施設	集会所を出来るだけ拡張する
地域社会 美化計画 11	41. 公共の広場	新しい町のイメージを作る
	42. 地域の内部	町全体の既観を良くする
	43. 継続的維持	維持基準を決めそれを継続せしめる
	44. 観光事業	風致地区の開発促進

Ⅲ. 社会再構成案

E. 基本的サービス提案

ICAコンサルタント

第3E表

医療機構 計画 12	45. 歯科医療施設	効果的な歯科指導
	46. 妊婦の世話	効果的な妊婦配慮
	47. 救急病院	緊急時に必要なものを設備する
	48. 専門医サービス施設	熟練した医療処置の確立
公益事業 計画 13	49. 水量供給	多量の上水施設を支援する
	50. 下水施設	適正な下水施設を持続する
	51. 水道局	水量サービスの責任を負う
	52. 除雪	敏速かつ経済的な除雪を計る
外部連絡 計画 14	53. 地域代表	効果的な外部関係を設立する
	54. 必需品提供依頼	基本的なサービスや必需品の提供を広告で依頼する
	55. 高速道路の建設	外部への交通量をふやす
	56. 水資源の利用	地域の天然資源を最大にする

Ⅲ. 社会再構成案

F. 地域教育提案

ICAコンサルタント

第3F表

職業技能 計画 15	57. 特殊技能	必要な職業器具を提供する
	58. 言語訓練	基本的な言語技術を学習する
	59. 職業訓練	地域で職業訓練の場を保证する
	60. 職業実務	商工業の経営管理技術を身につける
文化教育 計画 16	61. 地域教育	拡大してゆく訓練計画を開発する
	62. 家族計画	適切な家族計画を促進する
	63. 青少年活動	放課後（課外）活動の指導要領を作成する
	64. 老人活動	創造的な老人の活動の場を与える
幼児教育者 計画 17	65. 親参加	活発な成人参加をふやす
	66. 総合的計画	幼児学習過程を拡大する
	67. 経済的 支持	適切な教育施設を作る
	68. リーダー養成	地元出身の先生を養成する

Ⅲ. 社会再構成案

G. 自活形成提案

ICA コンサルタント

第3G表

隣接配慮 計画 18	69. 地域懇談会	効果的な市民参加を呼び起こす
	70. 開発委員	地域を象徴するリーダーを養成する
	71. 区域活動	適切な地理的配慮を増進する
	72. 冬期準備品	冬期生活状態を改善する
地域情報 交換計画 19	73. 週刊新聞	地域社会のニュースを新聞の形で発行する
	74. 公報掲示板	地方の重大出来事を告知する
	75. 情報センター	データを保管収集出来る機関を設置する
	76. 区域訪問	告知された活動に参加してゆく
象徴的 生活計画 20	77. 季節的祭典	地域における季節的祭典を催してゆく
	78. 50周年記念祭	町の歴史半世紀を祝う
	79. 社会的象徴	町全体を象徴しているものをシンボル化
	80. 国際的旅行	広い地球的視野を持ち社会的意識を広げる

第四部

実践体系

実践方式

この会議の4番目の仕事は、提案を実施してゆく手段となる行動計画、すなわち、「実践方式」を作りあげることにある。これは、「实际的提案図表」に示された計画を実施してゆくための行動を詳述し、組織だったものとしてゆく。この点で、「具体的未来像」や「隠れた問題点」は、実践方法決定に影響をもつ場合を除いては、二次的なものである。社会の変化は、単に未来像を把握し、提案を行なうことよりも、むしろ、実践を通じて起こるものである。従って、以下の「実践体系」の明確化こそ、本会議のおそらく最も重要な仕事である。

過程

それぞれの提案に関してたてられた多くの実践方法から、「実践方式」を作りあげる過程は、パズルをつなぎ合わせてゆくことと似ていると言える。完成されたパズルは、全体の計画の実施において、具体的な指針となる。コンサルタントは、この第4段階では、チーム別に、それぞれの専門分野に従って、「实际的提案図表」（第3表）所載の各項目を割りあてられた。各々のチームは、いくつかのグループに分かれ、提案を実行に移すにあたって必要となる総合的行動リストを作成した。引き続き、各チームは、グループ別の行動リストを整理し、与えられた提案に対する基本実践方式にまとめあげた。最後に、全てのチームの作業は1つに集められ、第4図表に示されている実践方式を明確、且つ、系統だったものとするためにまとめあげられた。

結果

実践方式図表（第4表）は、上述の第4段階の作業の成果である。この表は、4つの実践分野、7つの主要実践方法、27の基本実践方法、192の副実践方法から構成されている。基本的実践方法、並びに、副実践方法は、計画全体の特別な仕事を示している。それは、続く第4表にリストアップされ、詳述されている。7つの主要実践方法は、基本実践方法と副実践方法をあわせ持ち、基本実践方法が実施される場合に関連する実践分野の主要局面を示す。4A～4D表に示

された実践分野は、諸方法を分野ごとにまとめ、達成されるべき仕事の全体像を表わしている。これらの総括的なグループ分けに関しては、以下に詳述され、次に、主要図表と各実践方法についての詳細が記載されている。

実践分野

A

実践分野A、「地域商業基盤の拡張」は、2つの主要実践方法と8つの基本実践方法から構成されており、大夕張での商業の振興と農産物の増量が目標である。これは木製品産業、観光保養設備ならびに地元小企業の創立を通じて達成されるものである。同様に、大夕張の経済は、地元での野菜、果物の生産、牧畜の振興、協同農作業の拡大や効率的な灌漑施設の導入でその基盤が強化される。商業、産業の発展は、大夕張への資金の流入をもたらし、地域社会の存続に不可欠な雇用の増大に連なるのである。

実践分野

B

実践分野B、「本質的な物理的設計の改善」は、2つの主要実践方法と6つの基本実践方法から構成されており、大夕張の住民全体が希望している生活に必須の基本的諸サービスの改善・向上を目的としている。これらの実践方法は、医療、交通、道路や下水道施設の拡張、強化ならびに助言者の連絡網の創設のために組まれている。建設ならびに維持計画は、公共ならびに民間施設の機能を向上し、魅力的なものにすることになる。さらに、冬期及び夏期のスポーツのための野外レクリエーション地域の開発は、人々にいこいと交流の機会を与えることになるし、計画されている家屋の改修や新築は、大夕張への人々の流入さらにはその定着を促進すると期待される。

実践分野

C

実践分野C、「住民の参加意欲の高揚」は、2つの主要実践方法と8つの基本実践方法よりなっている。この分野での実践方法は、大夕張というユニークな地域社会の住民たちに効果的な計画への参加の道を開くために計画されている。様々な教育事業、地域住民がリーダーとなる機会の提供あるいは地域社会自身の意志決定などを通じての地域社会への参加は、大夕張の将来に対する関心を表現することを可能とする。子供達を地域社会の発展に寄与できる新しい市民に育てるための準備、あるいはあらゆる年齢層の人々をより重要な仕事に参加させるよう訓練することは、この一連の計画推進に必要な活力を具体的に実証することになる。

実践分野

D

実践分野 D、「将来の経済成長の保持」は、1つの主要実践方法と5つの基本基本実践方法から構成されている。この分野の目指すところは、新しい産業、商業の発展の基礎ともなる活気ある雰囲気、環境を作り出すことにある。大夕張への関心をよびさますような PR 活動とこれによる大夕張に適合した産業の誘致により、この地域社会の経済的基盤を固めてゆく。大夕張地域の財政あるいは金融組織の再編成ならびに土地の総合的な利用は、この開発計画の実施に必要な資金源を提供する。個々の基本実践方法自体では、新しい経済基盤を作ることは不可能である。しかし、それら全てが組み合わせることによって、経済発展を可能とする、活気にみちた環境を作り出すことになる。

大々張

地域・人間開発計画
ICA コンサルタント

実践体系チャート

1977年6月
議会
第4表

実践分野A

地域の商業基盤の拡張

実践分野B

本質的な物理的設計の改善

実践分野C

住民の参加意欲の高揚

実践分野D

企業 の 創 設
主要実践方法 I

基本的サービス
主要実践方法 II

地域社会の生活
主要実践方法 III

未来の経済的成長
の 保 持
主要実践方法 IV

地域社会に
おける訓練
主要実践方法 V

根本的な
建設工事
主要実践方法 VI

農業関連企業
主要実践方法 VII

基本実践方式 1

木製品産業
の奨励

基本実践方式 2

総合的旅行者用
行楽地の形成

基本実践方式 3

多様性に富む
新産業創設

基本実践方式 4

小企業の
可能性増進

基本実践方式 5

既存の医療管理
の改善

基本実践方式 6

必要工事の完遂

基本実践方式 7

適切な専門的
経験の獲得

基本実践方式 8

地域懇談会の
コーディネイト

基本実践方式 9

協力的な地域
社会活動の拡張

基本実践方式 10

地域社会帰属
意識の育成

基本実践方式 11

地域情報報
知機構の拡張

基本実践方式 12

町の効果的な
宣伝の強化

基本実践方式 13

包括的な
空間設計の実施

基本実践方式 14

大々張工業団地
の開発

基本実践方式 15

安定した金融
制度の創設

基本実践方式 16

お祭り行事の
活性化

基本実践方式 17

創造的社会的
教育の提供

基本実践方式 18

有利な職業
技術の強化

基本実践方式 19

総合的保育所の
充補

基本実践方式 20

リーダーの育成

基本実践方式 21

中心的地域の
施設復興

基本実践方式 22

屋外リクレーシ
ョンの場の建設

基本実践方式 23

住宅の整理・
改善の促進

基本実践方式 24

地域農業特産物
の紹介

基本実践方式 25

畜産の商業化の
調査

基本実践方式 26

地域の共同農場
の採用

基本実践方式 27

能率的な灌漑
システムの設置

実践分野 A : 地域の商業基盤の拡張

主要実践方法 I : 企業の創設

地域の経済に刺激を与え、雇用を促進するために新しい企業が必要である。周囲の豊富な資源を活用する本格的な木製品産業を興し、新しい経済基礎を作る。大夕張の自然の美しさや風景を利用し、保養施設を作り、観光事業を育成する。地域の産物を利用し大夕張の住民の能力を発揮して、新しい産業を創り出すことは、経済基礎を拓めることとなる。地域の様々な小規模の企業が、現在は提供されていないサービスや物資を住民と観光客に提供していく。

基本実践方法 1 : 木製品産業の奨励

- 副実践方法 その地域の木材資源を利用するために、その地域の労働力を生かして木製品工業を発展させる。近くの森から得られる丸太を加工するために製材所が建設される。製材部門から送られてくる木材や建築資材を加工するために木工所が設立される。漆器等の高品質の木製品を製造するために、仕上げ工場が経営される。種々の家具やおもちゃを作るために木細工店が始められる。箸や爪楊枝、合板等の副製品を製造するために副産物事業に着手する。木製品の特産物を広告したり、販売するために市場調査グループが組織される。
- 1
 - 2
 - 3
 - 4
 - 5
 - 6

基本実践方法 2 : 総合的旅行者用行楽地の形成

- 副実践方法 その地域における資金を生み、あるいは流通させるために旅行者のための行楽地が大夕張に開発されるだろう。情報を知らせ、公共施設を提供し、みやげもの、その他特有の手工業製品を売るために旅行センターが創設される。スキー用具やスキー学校、カメラ用品、貸自転車、釣具等のような旅行者に必要な品物やサービスを提供するために専門店が創設される。旅行者に夏の別荘や冬の別荘を供給するために休暇用小住宅が復旧される。大夕張旅館が一年中旅行者やスキー客用の高級スキーロッジとして建設される。旅行者と居住者両方のレクリエーションの場を提供するためにスキー場が拡張される。団体のために会議の場所や設備、サービス等の便宜をはかるために会議センターがその行楽地内に建設される。
- 7
 - 8
 - 9
 - 10
 - 11
 - 12

基本実践方法 3 : 多様性に富む新産業創設

- 副実践方法 地元の食料品や産物の取り引きを増進させ、またさらに進んだ雇用及びその機会を提供するために地元で小規模の産業が創始される。
- 13 地元でとれた産物を地域社会内及び地域社会外で取り引きする目的で、貯蔵したり準備したりするために、食品加工業が設置される。地域社会の産物を外の市場に運んだり、地元の工場や店に必要物を
 - 14 供給するために協同輸送機関が組織化されることが望まれる。地域内の店で民芸品や手織りの品などの販売ができるように地元の手工
 - 15 業が生み出される。地域社会の産物に大夕張のシンボルマークをは
 - 16 っきりとつけて、包装するために、包装出荷工場が設立される。地
 - 17 域社会の産物販売を確約する契約を得るために、生産物販売市場調査が行なわれるよう組織される。日本中の教育機関に販売するため
 - 18 に木材の標本や研磨された石や化石を使った学用品が作られる。

基本実践方法 4 : 小企業の可能性増進

- 副実践方法 地域の現金流動や大夕張の人々に対する商業サービスを増進させるために、小企業の可能性が拡張される。観光客や地元の人々によ
- 19 い食べ物を気持のよい雰囲気を提供できるように、地元のレストランが建てられる。町の中央商店街に娯楽の中心となる場所を提供す
 - 20 る喫茶店が開店される。地元の人々や観光客の需要にかなうように軽食を供給する店が開かれる。便利な洗たく場や乾燥サービスを地
 - 21 域社会に提供できる公共貸し洗たく場が実施される。地元の食糧や
 - 22 手作りの品が販売できる農民の市場が設立される。近隣の地域社会
 - 23 の人々を大夕張の商店にひきつけるような買い物定期市が催される。
 - 24 地元の人々や近隣の地域社会に、できたてのパンなどを供給するパ
 - 25 ン屋などが造られる。

実践分野 B : 本質的な物理的設計の改善

主要実践方法 II : 基本的サービス

地域住民の福祉を高めるため、衛生・医療管理、道路管理を改善し、環境計画

へ技術的援助を与える。特殊医療サービスや 24 時間体制の救急サービス等現在の医療サービスを拡張する。除雪や下水設備を改善し、近代的衛生技術を実用化していく。町の物的計画を発展させ、将来の環境利用に対する総合的計画を可能にするため、諮問機関等から技術的専門知識を求める。

基本実践方法 5 : 既存の医療管理の改善

副実践方法 総合的地域健康管理を改善するために、大夕張における健康面で
26 のサービス拡充を図る。清潔で近代的で能率のよい設備の整った医療施設が提供される。地方住民の健康面の問題に適切な処置ができる
27 るような最新の設備を導入する。軽視されている医療部門、例えば
28 結核、眼科、小児科を取り扱う特別の診療所が正規の時間通りに運
29 営される。地域内での 24 時間緊急体制を確立するために救急サー
30 ビスが提供される。総合的医療サービスを行なうために医療チーム
が組織される。健康管理に関する教育診療所の利用、運営、地域外
31 の医療機関との連携を保持するのにあたる。仕事を調整するために
32 健康保険協会を設立する。健康管理面でのボランティアを募集し、
種々の調査、健康管理に関する教育のためのプログラムや診療所の
33 日常の仕事を手伝ってもらう。地域住民の歯と歯科に関することに
適切な処置のとれる歯科サービスが必要である。産科、婦人科、産
34 前産後の看護サービスのできる婦人専門の診療所が必要である。住
35 民には初めの治療と後の予防法を含めた健康管理を指導しなければならない。

基本実践方法 6 : 必要工事の完遂

副実践方法 基本的な地域社会の要求をみたすために必要な工事が続行完成さ
36 れるべきである大夕張と芦別を結ぶハイウェイの完成を急ぐ必要が
ある。望ましい状態に道路を保っておくため穴を埋め表面をなめら
37 かにして年間を通じて道路の補修、維持がなされる。将来建設され
38 る産業地区と住宅地区と観光客用の地区間を容易に交通できるよう
39 新しい道路が建設される。バス停などの地区や老人居住地の除雪を
拡充する。歩道、道路、各家庭から流れてくる汚水进行处理するため
40 に下水溝を拡げる必要がある。汚水が川に流れ込む前に、さらに高
41 い水質基準に合うように汚水処理施設を拡張改善する。現在使われ

- 42 ている下水管を、漏ったり、凍ったり、つまったりするという問題を改良するために新しい管と取り替える。地域住民に対するサービスと近代衛生施設の優秀性を示すために市の中心部に水洗便所を設ける。

基本実践方法 7： 適切な専門的経験の獲得

副実践方法 地域社会がより一層の成長と発展のために必要としている付加的経験や専門知識を提供するために、コンサルタントの連絡網が組織される。また大夕張の改善、拡張のための指標を提供する土地利用計画の製作のために、都市計画の顧問を招へいする。地域の土壌や鉱物含有の可能性を確定するために、地質分析を行なう。この地域で最も促成栽培に適した植物や、湖の沈泥を農業用土として利用する可能性確定のために、農業関係の助言者と相談する。文化コースや成人教育のためのカリキュラムや教育方法を考える上で、地域の有志や教育者のアシスタントを訓練するために、教育顧問が必要である。将来の産業のための環境査定は、地域の自然美、自然資源の維持、又、在住者の健康管理を考えた上で行なわれる。日本国内や他国からの有志の専門家が、大夕張地域・人間開発計画に、短期、もしくは長期にわたって参加できるように、援助者の連絡網を作る。外部の専門家からの役に立つ情報を収集するために、情報処理センターが設立され、情報を必要とする人々に、資料を提供する。

実践分野 C： 住民の参加意欲の高揚

主要実践方法 III： 地域社会の生活

生き生きとした新しい地域社会の精神を高揚し、広範囲にわたって、地域住民が地域の行事へ参加できるようにする。様々なグループのために、企業や社会機構の将来の方向や活動を定める集会在、地域社会全体を通じて開かれる。行事を催すことによって、人々は一堂に会し、仕事を共にし、親睦を深めてゆく。将来に対して希望の持てる大夕張の新しいイメージを打ちたてるために、地域社会の特色を強調する。新しい情報機構が全ての住民に地域社会の開発に参加する機会を提供する

基本実践方法 8： 総括的地域懇談会のコーディネート

副実践方法 大夕張の計画や住民のまとまった意見作りに効果的に参加する機会を、個々の住民全体に提供するために、地域の定例会を開く。町の計画や討論、住民サービスのプランを知らせる機会を提供するために、町内会を開く。大夕張の生活の再検討と計画のために、全ての年齢層や職層の人々を一堂に集めて、月例の市民会議を開く。住民全体のための年4回の会議が、仕事の報告、完成された仕事の祝賀、又、次期のプランを討議するために開かれる。教育、町づくりのプラン作り、サービスや営利農業についての適切な問題を扱う地域女性の会が開かれる。協力して計画を作成し、様々なプログラムを調整するために、指導者の会議が開かれる。社会人の連盟が定期的に、商業やサービス業を調整するために集まる。

基本実践方法 9： 協力的な地域社会活動の拡張

副実践方法 人々を共に集めて、彼らの参加意識を広げるために、地域社会の活動は、共同の仕事と祝賀会の機会を提供する。清掃キャンペーンは、紙くずやごみを地域社会、特に、空地や河川敷きから除くために行なわれる。お年寄りの市民の住宅の維持と改善を助けるため、老人に対するサービスを提供する。全ての年齢層の住民に対して、運動の機会を提供するために、スポーツ競技会を行なう。パーティやピクニック、小旅行、文化会のような活動を通して人々の親睦を深めるために、町ぐるみの行事が開かれる。地域全体で町の施設を維持、改善していくために、勤労奉仕デーがもたれる。毎年、共に地域の祝賀を行なうために、ピクニックを行なう。全ての年齢層の人々が、盆踊りや社交ダンスに参加できるように、地域の踊りの会を開く。新しい大夕張を祝うために、大夕張の50年祭を1979年に開催する。定期的に、教育と余興の両方の観点から、フィルムやスライドを見る映画会を開く。

基本実践方法 10： 地域社会帰属意識の育成

副実践方法 大夕張の地域社会の精神、及び、将来の推進力というものを思い起こさせ、又、それを統一するため、大夕張独自のシンボルを作り

表示する。町名や地図、或いは、区画図で、それぞれの町を認識することができるよう、町の標識を建てる。地域の有望なる将来に関する、視覚に訴えるイメージを提示するため、町のポスターをはり出す。地域に属しているという意識や、地域に対する誇りを生み出すために、地元の産物や宣伝用資料、及び、記章などに、町を象徴した区画図をつける。地域社会の境界を象徴し、町への訪問者を歓迎するため、人目をひく町への玄関を設ける。地域社会の新しい紹介をするために、最も効果的な場所にある建物に、町の中心地の図を描く。地域社会の統一された外観を生み出すため、地域の共通した装飾を立案する。地域社会の歴史に対する正しい理解を深めるため、大夕張の文化的遺産を力説する。地域の行事の際に使えるように、地元、及び、日本や世界の歌を取り入れた歌集を作る。

基本実践方法 11： 地域情報機構の拡張

副実践方法 大夕張の市民に、地域、及び、その活動、公共事業、行事に関する最新の情報を提供するために、情報機関を拡張する。地域住民に最近の行事やその知らせを伝えるために、大夕張新聞を発行する。地域全体に対し、即座に情報を伝えることができるように、拡声器のシステムを作る。統一された方法で、様々な報知事項、会合の予定、その他の重要な注意事項を掲示するために、掲示板を共通したデザインにそって一新し、過剰な掲示板をとりのぞく。主要行事や祭りを公示し、また、地域に関してよい印象を与えることができるように、地域のカレンダーを印刷し、配布する。近隣の地域社会との間で、互いの世話や情報の伝達、また、互いの協力を確保するために、互いの町の視察を始める。地域の新聞や広告物等の印刷手段を確保するため、印刷設備を設ける。

実践分野 D： 未来の経済成長の保持

主要実践方法 IV： 経済的成長

大夕張の経済が将来成長していくためには、経済的基礎を拡張することが必要

である。石炭産業の損失を穴埋めするため、観光事業やあらたな産業を誘致すべく、大夕張の総合的宣伝活動を実施する。観光、産業、商店、住宅の地域指定は全体の土地利用計画の中で行なわれ、電力、水道、交通等の公共施設やサービスの整った工業用地が新たな産業のために開発される。基本的に不可欠な金融機関や制度も商社活動を盛んにするため創設される。大夕張を一大観光地にして、季節ごとにお祭り行事を催し、観光客をひきつけて、新たに収入が入るようにし、あわせてこの地域の宣伝効果を狙う。

基本実践方法 12： 町の宣伝

副実践方法 新しい産業が大夕張にくることを促進し、観光関連事業の開設を盛んにするために、種々の宣伝が開始される。大夕張に進出してほしい企業や訪れてほしい観光の見込客に対して、町の概要と将来有望なことを述べたPRの印刷物が作られる。旅行者の質問に答え、PRの印刷物を渡す中心的部門として情報局が設けられる。広報宣伝を担当する人々は観光客と新しい産業をひきつけるため、さまざまな計画を作り、それを実行する。新しい大夕張を大々的なキャンペーンが開始される。特定の会社や団体に対して大会や慰安旅行に大夕張に来るよう特に働きかけが行なわれる。

基本実践方法 13： 空間設計の実施

副実践方法 大夕張の物理的外観を改善し、土地を効果的に利用するため、総合的に空間の設計がなされる。工業、商業、住宅、レクリエーションの諸地域の指定を行ない、町のすべての土地を有効に、また魅力が生まれるよう土地利用が組まれる。大夕張の外観を改善する地域風致改善も、住民と外部からの訪問客の両方のために進められる。街路樹の植樹が大夕張の中心街に色どりと季節の趣きを添えるため行なわれる。いこいとくつろぎの静かな区域を設けるため遊園地が作られる。あらゆる年齢層の人々のレクリエーション活動を盛んにするため、地域内のあちこちに公園が設けられる。商店街に客が多く集まって儲かるよう、共通のモチーフで店頭の改装を行なう。こわれかけた、また危険な建物を取りこわし、整地して建築物の間引きを行なう。

基本実践方法 14 : 工業団地

- 副実践方法 新しい産業を誘致するには必要な建造物や、管理業務サービスを含む基本的サービスが備わっていなければならないが、そのために
- 92 工業団地が開発されるのである。工場用地は土地利用計画によって敷地が割り当てられ、その場所に新しい産業や工場の施設が建設されるようにする。大々張に新しい産業や製造工場が建設されるように
- 93 するための、会社優遇措置が実施されることになろう。工業チームは国内あるいは海外の諸企業に交渉し、大々張で事業を行えば
- 94 有利であることを知らせ、またそうするよう説得する。新しい工業団地には、上水道、電気、道路、下水道等、工場の必要とする基本的サービスの施設が整備される。簿記、翻訳サービス、監督者研修
- 95 プログラム等の管理業務サービスも利用できるようにする。政府官公庁や私企業を通じて、新しい製造業種のこの地域への工場進出を一層促進するような活動もなされる。

基本実践方法 15 : 金融制度

- 副実践方法 現在の経済基盤を拡大し、新事業に地域全体が参加する基礎的なものを確立するために、安定した金融制度を創設するものとする。
- 98 持株会社を設立し、新しい地域経済開発事業のための法人とする。
- 99 持株会社のコミュニティ株は労働または現金と引換えに売られる。
- 100 地域から交代交代に選出されて運営される財務委員会は出資の優先順位をきめるのに参画する。政府官公庁ならびに民間私企業から必要な資金と資源を提供するよう要請する資金調達チームを組織する。
- 101 持株会社への投資を促進するために財政計画書が公表される。地元
- 102 の商工業者のため、低利長期の資金を融資する開発ローンも保証される。
- 103

基本実践方法 16 : お祭り行事

- 副実践方法 この地域のお祭り行事に住民や観光客をひきつけるため、祝賀の行事や季節ごとのお祭り行事を沢山行なう。春には春の植えつけ前に
- 104 四季のお祭りシリーズの一環として湖祭りを開催して観光客をひきつける。かつての住民や滞在客がもう一度帰ってくることを歓迎
- 105 するふるさと祭りを、毎年恒例の夏の行事とする。ウインター・カ

- 106 ーニバルは雪で彫刻や村を作るもので、大夕張に観光客が沢山来る
 107 よう盛んに行なう。秋祭りも毎年催し、大花火打上げや名物の料理
 で観光客を誘致する。長い雪の季節の間中、スキーヤーをひきつけ
 108 ておくために、クロス・カンントリー、ダウンヒル、ジャンプ等のス
 キー競技を盛んに催す。

実践分野 C： 住民の参加意欲の高揚

主要実践方法 V： 地域社会における訓練

地域住民に知識経験を増やす機会を与えるため、広範囲の訓練、活動に着手する。創造的な社会教育プログラムでは、異なった様々な趣味の工芸や、文化的な技術を紹介していく。新しく計画された産業を養成していくために、より専門的な職業技術を開発する。保育園児教育プログラムの充実のため、さらに多くの参加をつのることに重点を置く。指導養成の方法と活動は当事業の存続期間中続けられる。

基本実践方法 17： 創造的社会教育の提供

- 副実践方法 住民の意識を高揚し、実用的技能の開発を促進するために教育委員会と協力して社会教育プログラムを作成する。民芸を使って日本、
 109 北海道、大夕張およびアイヌ人の歴史を教える。世界文化セミナー
 110 を開き、講義や催し物を通じて異なる文化、伝統に対する関心を高
 111 める。図書館の利用方法や本の回覧に関する講義を行ない、読書の
 112 楽しみを多くの家庭に普及させる。音楽グループをつくり、音楽に
 に対する関心を高め、コミュニティの音楽の催しに積極的に参加させ
 113 る。料理とかあみものといった技能を向上させるため「ホーム技能
 114 教室」を開く。青年に社交ダンスを教えるためダンス教室を開く。
 115 男女両方の退職者のために老人大学を開校し、社会、文化分野での
 勉学が継続してできるような機会を提供する。キャンプに必要な実
 116 際の知識を学びたいと思っている人々に、キャンプの技術を教える。
 117 青少年活動クラブをつくり、特に冬場、放課後に体育訓練やグルー
 プ運動を促進する。

基本実践方法 18： 有利な職業技術の強化

- 副実践方法 地域住民の経済的生産性を増進させるために、さまざまな種類の
- 118 公式的な実地指導訓練の集りを行なう。小さな会社を設立経営する
 - 119 ために必要な基礎的経営技術を住民に提供するため経営学を教授す
 - 120 る。住民に建築設計デッサンを教えて、町の建設復興再建に際し、
 - 121 ビルや家を設計することに役立てる。自動車の修理、整備工場を経
 - 122 営してゆくため自動機械についての訓練がなされる。養殖魚産業を
 - 123 開発してゆくために実地訓練用の養殖魚場を通じて住民に養殖魚業
 - 124 の技術を教えてゆく。この地方の農業技術を改良拡充するために、
 - 125 地方農産物を育成販売する実施指導を通じて、園芸技術を指導する。
 - 126 趣味と実益を兼ねて、和服や洋服を作るデザイン裁縫技術の指導が
 - 127 行なわれる。伝統的な日本工芸品を復活させ、実益を伴う小家内工
 - 128 業を起こすために、手工芸技術を指導してゆく。建築技術を指導し
 - 住民に地域の建物、住宅を新築、改築する能力、手段を持てるよう
 - にする。新しく始められる家具製造業のために、戸棚作りの技術者
 - を養成してゆく。産業開発と、観光事業の宣伝資料の仕事をする人
 - 々にグラフィックデザインを提供する。養成コースを設け、新しく
 - 起こす企業、産業のスタッフとすべく青年を訓練してゆく。

基本実践方法 19： 保育園児の教育

- 副実践方法 大々張の全幼児に早期教育の機会を与え、小学校入学前の準備期
- 129 間を与えるために保育所を補充拡張する。保育所の幼児たちが確固
 - 130 とした教育基盤を確立するために、総合的カリキュラムは実際的方法
 - 131 を使って発展されるべきである。2才から5才までの間の全ての
 - 132 幼児が入所することが望ましい。保育所では給食を出して保育所を
 - 133 一日中活用できるよう規約を拡げる。保育所の先生の補佐を園児の
 - 増加に従って、保育所で手伝えるよう訓練する。保育所の全ての設
 - 備の管理に対する共同責任がとれるよう、両親の参加がプログラム
 - の中に組みこまれるようにする。

基本実践方法 20： リーダーの育成

- 副実践方法 責任というものに対する視野をひろげ、リーダーシップの基盤を

強化するために、効果的なリーダーシップの養成のための活動が行
134 なわれる。大夕張の全ての学校が直面している種々の重大な問題を
解決するために、教育関係の専門グループを結成し、協力してそれ
135 らの問題にとり組んでゆく。彼らの周りの世界についての知識と認
136 識を深めるために、国際的（全世界的）感覚を養うように導きたい。
現職の人々がプロジェクトの教育プログラムの部門のボランティア
137 をしてくれる人々を訓練することが望ましい。仕事、教育、海外旅
138 行を可能にするために、大夕張の全住民に対して、英語教育が提供
される。計画を実行完成してゆくためにプログラムを扱ってゆける
139 プログラムリーダーを養成する。青少年・成年層の両方のリーダー
140 たちの交換が、大夕張と日本の他の地域間に行なわれる。社会的、
文化的、想像発展的方法のためのカリキュラムが、地域のリーダー
141 シップを育てるために提供される。他の人間開発計画地域と開発方
法を交換し合うためにプロジェクトに加わっている人の他の地域訪
142 問（視察）が必要。全ての教育プログラムを一箇所の建物で開催す
ることを可能にするような、トレーニングセンターを町の中心部に
設立し、この地方の住民にトレーニングする機会をふやしてゆく。
責任感を持たせるために、青年のリーダーを地域計画活動の中に参
143 加させるべきである。

実践分野 B： 本質的な物理的設計の改善

主要実践方法 VI： 根本的な建設工事

将来の住民の活動や生活に、改善された美しい施設を供給するために、根本的な建設工事を行なう。住民が、娯乐的なまた、文化的な楽しみのために集まる、センターを建設する。住民や観光客が、屋外でスポーツ活動ができるような場所を提供するために、自然の空地を美化する。新しく整理された住宅は、新しい大夕張地域にとって、安定した住宅基盤となる。

基本実践方法 21： 中心的地域施設の復興

副実践方法 地域の活動を促進させ、大夕張に新住民をひきつけるために、総

- 144 合的公共施設を開発する。会議ホールが大小の集会及び催しを行な
うのに十分な設備を提供し得るよう修復する。戸外の地域集会とし
145 ての場所を提供するための市民広場を建設する。広範囲にわたる図
146 書及び視聴覚サービスを提供するため地域図書館を拡張する。大夕
147 張の将来ならびに過去を鮮やかに描写するために地方博物館を建て
る。屋内の娯楽的スポーツ及び体育活動を促進させるため設備の充
148 実した、レクリエーションセンターを建設する。

基本実践方法 22： 屋外レクリエーション場の建設

- 副実践方法 実用的で興味をひく娯楽的スポーツの場を提供するために、屋外
のレクリエーション場を建設する。休暇を楽しむ人達に対して、安
149 全で便利なキャンプ場を提供するために、キャンプ場を指定し、又
150 その施設を建設する。ハイキングコースを建設し、人気の出たハイ
キングをさらに奨励する。地元の人々や、休暇で魚つりを楽しむ人
151 達に、行き易い魚釣り場を提供するために、漁場を開発する。地方
住民のみならず、来訪客に輸送と運動の付加的手段として、自転車
152 専用路を作る。子供達にとって安全で創造的な環境を与えるために
153 地域の遊び場を備える。冬にはスケートやその他のスポーツを行な
うのに安全で便利な場所を提供するために、保護カバー付きのスケ
154 ートリンクを建設する。ウィンタースポーツ愛好家に別途のレクリ
155 エーションを提供するため、湖の近くに、トボガン（平底櫓）用競
走路を設置する。

基本実践方法 23： 整理、改良された住宅の促進

- 副実践方法 すべての住民に生活の便宜をはかるため、整理され、改良された
156 新しい住居建設のプログラムに着手する。住宅の整理・統合は、住
民を中心に集め、空家を除去することにより行なわれる。老人家庭
157 に対し、雪かきを少なくし、寒さと事故から守られるように、大雪
158 保護対策を実施する。モデルハウスを、その地方で入手し易い資材
で建設し、簡単な維持、有効な光熱、水洗便所、洗たく場設備とい
159 ったものを例証する。大夕張に住む退職者と、移住してきた住民に
160 売り出せるような新家屋を建設し、住宅開発計画を行なう。家屋
改修には、住民が家屋を改善したり増設したりできるように融資が
なされる。

実践分野 A : 地域商業の基盤拡張

主要実践方法 VII : 農業関連企業

大夕張で現在行なわれている農業関係の企業を拡大するために、農業経営の新しい様式と方法を追求していかなければならない。実験用の野菜や山菜を地域の菜園で栽培することにより、特別な農業資源を増やしていく。新しい畜産業を拡大するために、組織的、かつ、整備された生産技術を導入する。協同の農業経営により、よりよく資源を活用し、個々の農場主の仕事をさらに生産的なものとする。灌漑設備の完備によって、新しい農地の利用が可能となる。

基本実践方法 24 : 地域農業特産物の紹介

副実践方法 山腹に野生に沢山育つ独特の農産物を利用し地方住民の興味と能力に応じて特産物に育てるために地方農業を拡充する。野生植物、野菜、果実等の山の農産物は市場用に加工するため集められる。盆栽を商品として育てる。果実生産：リンゴ、ぶどう、さくらんぼ等の生産を実験的に行ない商品価値を判定する。老人菜園を作り地域内で売れる新種の野菜を実験的に生産する。地域種苗園では地域で売れそうな夕張山特産の植物を育てる。みみず農場を作って漁民に餌を供給し土壌を肥沃にする。

基本実践方法 25 : 畜産業の振興

副実践方法 魚、家畜等の新しい畜産を開発し、大夕張の経済的基盤を拡大強化する。牛、鶏、兎、ミンク、魚、うなぎ等の飼育産業を商業化する新しい計画を始める元となる家畜を選択し調達していく。新しい家畜の安全な環境を作るために畜舎を設計し建設する。飼料や畜糞を再生利用した土地を有効に使って飼料の自給化をはかる。家畜の品種改良を行ない品質を確保する。家畜の健康管理と日常の世話等を総合的に管理する。家畜の適切な管理のため飼育技術を体系的に指導する。副収入源として養殖業を導入する。つまりうなぎ養殖を始めて農業以外の収入を得る。

基本実践方法 26： 共同農業

副実践方法 大夕張の益利農業を強化して地域の農業共同体を拡大する。畜産
175 廃棄物の再利用を協力的に始める。大夕張で将来飼育する家畜の飼
176 料として必要な作物を選び栽培していく。農業組合の支部を編成し
177 て大夕張の農民に全体の意見を提供し備品購入及び市場開発に関す
178 る機構を提供する。農地開発は大夕張の現在の土地利用と農業の可
179 能性を拡大する。新しい農作物を開発、栽培して自給自足経済を強
180 化し大夕張に新しい商品作物をもたらす。農耕機器の共同使用を行
181 ないさまざまな技術上の経験の交換を可能にし農業技術の検討、改
182 良が行なえるようにする。若い農業従事者は新しい農耕の原理を組
183 織的に学び、協力して新しい実験的作物を栽培する。能率的農業を
目ざし農耕機器類と共同体を基盤として調達する。

基本実践方法 27： 灌漑システム

副実践方法 大夕張の農耕基盤拡張のため灌漑設備を現存の農耕地及び新しく
184 開発される土地に建設する。開墾可能な4つの地域のために提案さ
185 れた灌漑のための綿密な計画をたてる。その設計明細に対する事前
186 の費用見積りを行なう。さまざまな必要性をチェックするため少く
とも2人の市の農業技術者や2～3人の農業専門家がそれぞれの灌
漑用適地の分析資料を集めたり、鹿島地区（現存の農耕地）の井
187 戸のテストボーリングを行なったりする。土壌及び気候条件又市場
188 開発の可能性との関連の上でそれぞれの地区がどんな農業に適して
いるかを決定する。農業用地としての土地利用については各地域で
指定された農業収益の見込みと灌漑にかかる費用とを比較した上で
189 最終決定を行なう。土地獲得にあたって土地購入及び灌漑設備建設
190 のための資金収集が必要となる。灌漑システムの建設は有志の労働
者の協力を得て寄付された器具を使って井戸、ため池、用水路等の
191 建設を優先順に実行する。貯水場から農地まで水を運ぶためのポン
192 プやパイプ等を調達する。それぞれの貯水場について水の供給スケ
ジュールをたてて供給を受ける地域と日時を決定する。

実践分野 A

地域の商業基盤の拡張

ICA コンサルタント

第4A表

主要実践方法 I 企 業 の 創 設	主要実践方法 VII 農 業 関 連 企 業
基本実践方法 1 木 製 品 産 業 1. 製 材 所 2. 木 工 所 3. 仕上げ工場 4. 木細工店 5. 副産物事業 6. 市場調査グループ	基本実践方法 24 農 業 特 産 物 161. 山の農産物 162. 盆 栽 163. 果実生産 164. 老人菜園 165. 地域種苗園 166. みみず農場
基本実践方法 2 旅 行 者 用 行 楽 地 7. 旅行センター 8. 専 門 店 9. 休暇用小住宅 10. 大夕張旅館 11. スキー場 12. 会議センター	基本実践方法 25 畜 産 業 167. 家畜の選択・調達 168. 畜舎 169. 飼料の自給化 170. 家畜の品種改良 171. 総合管理 172. 飼育技術 173. 養殖業 174. うなぎ養殖
基本実践方法 3 新 産 業 13. 食糧加工業 14. 協同輸送機関 15. 地元の手工業 16. 包装出荷工場 17. 生産物販売契約のための市場調査 18. 学用品	基本実践方法 26 共 同 農 業 175. 協同の再生利用法 176. 飼料 177. 組合の支部 178. 農地開発 179. 新しい農産物 180. 農耕機器の協同使用 181. 技術交換 182. 若い農業従事者 183. 農耕機器類
基本実践方法 4 小 企 業 19. 地元のレストラン 20. 喫茶店 21. 軽食を供給する店 22. 公共貸し洗たく場 23. 農民の市場 24. (買物) 定期市 25. パン屋	基本実践方法 27 灌 漑 シ ス テ ム 184. 綿密な設計計画 185. 費用見積り 186. 必要性チェック 187. 農業の目的 188. 最終決定 189. 土地獲得 190. システム建設 191. 用具の調達 192. 供給スケジュール

本質的な物理的設計の改善

ICAコンサルタント

第4B表

主要実践方法 II
基本的サービス

主要実践方法 VI
根本的な建設工事

基本実践方法 5
医療管理

基本実践方法 21
地域施設

- 26. 医療施設
- 27. 最新の設備
- 28. 特別の診療所
- 29. 救急サービス
- 30. 医療チーム
- 31. 健康保険協会
- 32. 健康管理面でのボランティア
- 33. 歯科サービス
- 34. 婦人専門の診療所
- 35. 健康管理の指導

- 144. 会議ホール
- 145. 市民広場
- 146. 地域図書館
- 147. 地方博物館
- 148. レクリエーションセンター

基本実践方法 6
必要工事

基本実践方法 22
レクリエーション場

- 36. ハイウェイの完成
- 37. 道路の補修
- 38. 新しい道路の建設
- 39. 除雪
- 40. 下水溝
- 41. 汚水処理施設
- 42. 下水管
- 43. 水洗便所

- 149. キャンプ場
- 150. ハイキングコース
- 151. 魚釣り場
- 152. 自転車専用路
- 153. 地域の遊び場
- 154. スケートリンク
- 155. 平底橋用競走路

基本実践方法 7
専門的経験

基本実践方法 23
機能的住宅

- 44. 都市計画
- 45. 地質分析
- 46. 農業関係の助言者
- 47. 教育顧問
- 48. 環境査定
- 49. 助言者の連絡網
- 50. 情報処理センター

- 156. 住宅の整理統合
- 157. 大雪保護対策
- 158. モデルハウス
- 159. 住宅開発計画
- 160. 家屋改修

実践分野 C

住民の参加意欲の高揚

ICAコンサルタント

第4C表

主要実践方法 Ⅲ 地域社会の生活	主要実践方法 V 地域社会における訓練
基本実践方法 8 地域懇談会	基本実践方法 17 社会教育
51. 町内会 52. 市民会議 53. 年4回の会議 54. 地域女性の会 55. 指導者の会議 56. 社会人の連盟	109. 民芸 110. 世界文化 111. 読書の楽しみ 112. 音楽のグループ 113. ホーム技能教室 114. 社交ダンス 115. 老人大学 116. キャンプの技術 117. 青少年活動
基本実践方法 9 地域活動	基本実践方法 18 職業技術
57. 清掃キャンペーン 58. 老人に対する世話 59. スポーツ競技会 60. 町ぐるみの行事 61. 勤労奉仕デー 62. 地域のピクニック 63. 地域の踊りの会 64. 大夕張の50周年祭 65. 映画会	118. 会社の経営 119. 建築設計 120. 自動機器に関する技術 121. 養殖魚場 122. 園芸技術 123. 裁縫技術 124. 手工芸技術 125. 大工技術 126. 戸棚作り 127. グラフィックデザイン 128. 見習工の訓練
基本実践方法 10 地域社会帰属意識	基本実践方法 19 保育園児の教育
66. 町の標識 67. 町のポスター 68. 町を象徴した区画図 69. 人目をひく入口の建設 70. 町の中心地の図 71. 地域社会共通の装飾 72. 大夕張の文化遺産 73. 地域社会の歌集	129. 総合的カリキュラム 130. 幼児の入所 131. 給食 132. 保母さんの補佐 133. 両親の参加
基本実践方法 11 地域情報機構	基本実践方法 20 リーダーの育成
74. 大夕張新聞 75. 拡声器のシステム 76. 地域の掲示板 77. 地域のカレンダー 78. 町の視察 79. 印刷設備	134. 教育のための協会 135. 海外研修旅行 136. 教育者の訓練 137. 英語教育 138. プログラムリーダー 139. リーダーの交換 140. 方法についてのカリキュラム 141. 計画地域の訪問 142. トレーニングセンター 143. 青少年のリーダー

実践分野 D

未来の経済成長の保持

ICA コンサルタント

第4D表

主要実践方法 IV

経済成長

基本実践方法 12

町の宣伝

- 80. PR の印刷物
- 81. 情報局
- 82. 広報宣伝を担当する人々
- 83. 大々的なキャンペーン
- 84. 特定の会社や団体

基本実践方法 13

空間設計

- 85. 土地利用
- 86. 地域風致改善
- 87. 街路樹の植樹
- 88. 遊園地
- 89. 公園
- 90. 店頭の改装
- 91. 建築物の間引き

基本実践方法 14

工業団地

- 92. 工業団地
- 93. 会社優遇措置
- 94. 工業チーム
- 95. 基本的サービス
- 96. 管理業務サービス
- 97. 工場進出の促進

基本実践方法 15

金融制度

- 98. 持株会社
- 99. コミュニティ株
- 100. 財務委員会
- 101. 資金調達チーム
- 102. 財政計画書
- 103. 開発ローン

基本実践方法 16

お祭り行事

- 104. 湖祭り
- 105. ふるさと祭り
- 106. ウィンター・カーニバル
- 107. 秋祭り
- 108. スキー競技

第五部

実施プログラム

プログラム

会議の最終的な仕事は実践方法を実施プログラムに作りあげていくことであった。このプログラムは、その中で特別な実践方法が行なわれるような、綿密な構成や形を提供する。これはいくつかの必要な機能を果たす。このプログラムは計画の幅広い出費の分析を可能とし、その資金調達に対しては、決定的な手段となる。また、このプログラムは、全体の計画に対してかなり正確な段階的計画を作り出すことを可能にする。これは計画を実行する地域の人達と、支援網を形成する地域外部の人達の組織作りの役割を果たす。最後にこのプログラムは地域の人や、計画支持者や、広く一般の人々に対して、地域・人間開発計画の可能性と包括性と統合性を示すことで、それらの人々にやる気をおこさせる。

過程

実施プログラムを作ることはまず地域の事情に照らして実行可能であり、効果的運営に対しては現実的である副実践方法全体をまとめあげていくことを含んでいる。ついでこれらは包括的かつ集中的にするために「提案」「問題点」「实际的未来像」に関してチェックされ、仕上げがなされる。人々に興味を持たせる劇的な力と、開発が早急に行なわれる可能性を含む確実な評価がプログラムを作る過程を通して保たれる。プログラムを確認することは、その分野を明確にし、そのための手法が創られる実践方法を構成するための計画実施の第一歩である。手法は副実践方法とプログラムを遂行中の地元の人々にとって取られる確乎たるステップの一つである。各々の必要なステップは一度決定されると、日、週、月単位のスケジュールに組まれていく。しかしながらこのように時期を区切った実施計画の作成は、会議でなされる仕事ではなく、地域の人々によりなされるものである。

結 果

第5表に示された大夕張地域・人間開発計画の実施プログラムの数は13である。これらのうち5つは大夕張における経済基盤の再構成に関連している。これらのプログラムの意図は、全地域の新しい収入構造を作り上げるため、商業及び農業の基盤を構造的に再編成することである。この5つのうち3つは工業開発に関連しており、残りの2つは農業関連企業の拡張に関するものである。工業開発分野は、林業関連産業、観光施設、及び新しい工業団地を含む。農業関連企業拡張に関する2つの計画は、中小企業と農業共同体についてである。大きなプログラムの2番目は、大夕張における物理的構成の再設計に関するものである。この分野は3つのプログラムを含む。建設計画、公共施設開設、特別サービス網である。大きなプログラムのグループの第3番目は5つのプログラムからなり、大夕張における社会構造の再編成に関するものである。このうち2つは地域社会構造を取扱い、残りの3つは総合訓練を取扱っている。この社会的プログラムの第一部は、大夕張開発協議会と地域活動センターを含む。第二部は総合的訓練を取扱っており、職業訓練所、指導者養成機構、継続的な教育施設を含む。

要 約

これら13のプログラムについては次のセクションで詳しく説明される。それらの要約は計画を十分に記述するために意図されたものではなく、各々の一般的焦点を示すため、また他の計画との関連性や各々のプログラムと全体との関係を示すためのものである。それぞれの要約は3つのパラグラフからなっている。第1のパラグラフは、計画の幅広い機能性を述べ、それがなぜ全体計画に必要なかを説明している。第2のパラグラフは4つの主要要素を述べている。最後のパラグラフは、プログラムを実施するに当たって一般的に必要な事項を示している。但しこれは既述の副実践方法の時間割された実施のそれぞれの行動を特定するものではない。計画の要約はむしろ包括されている段階を指摘し、プログラムの実際上の可能性を喚起起こすことにある。要約のそれぞれに4ヶ年経費計画（第5B-N表）が添付されている。

一	大タ張経済構造の再編成		二	大タ張社会構造の再編成		三
産業開発		農業・商業の拡大		大タ張物的構成の再整備		総合的トレーニング E 共同体の組織 D 職業技術訓練 XI 指導者養成機構 XII 生涯教育組織 XIII
I 林業関連産業		IV 中小企業再興		VI 建造物新設		
II 観光設備の新設		V 共同農業開発		IX 大タ張開発協議会		
III 新しい工業の導入				X 地域活動センター		
				XIII 特別サービス網		

大タ張

地域・人間開発計画

ICA コンサルタント

総合再開発のための
13の実施プログラム1977年6月
会議
第5a表

大タ張経済構造の再編成				大タ張社会構造の再編成					
産業開発		農業・商業の拡大		大タ張物的構成の再整備		共同体の組織		総合的トレーニング	
A		B		C		D		E	
I.		IV.		VI.		IX.		XI.	
林業関連産業		中小企業再興		建造物新設		大タ張開発協議会		職業技術訓練	
1. 製材工場	2. 加工品	3. 家具生産	4. 木材副産物	13. 商店街アーケード設置	14. 食品供給	15. 共同輸送	21. 地域再編成	22. 産業用地	33. 資金分割負担
5. 山荘・行楽地	6. 季節祭典	7. 休暇村	8. 観光客センター	23. 商業施設	24. 住宅復旧	25. 環境美化	26. スキー場	27. 河岸開発	34. 金融
9. 食品加工	10. 鉱山資源	11. 部品組立工業	12. レクリエーション産業	28. キャンプ用地	29. 健康診療	30. 衛生管理強化	31. 道路維持	32. 共同建設隊	35. 資金投下
II.		V.		VII.		X.		XII.	
観光施設の開発		共同農業開発		公共施設開設		特別サービス網		指導者養成機構	
3. 家具生産		17. 共同農業		26. スキー場		30. 衛生管理強化		46. 青少年参加	
4. 木材副産物		18. 家畜飼育		27. 河岸開発		31. 道路維持		47. 指導者交換	
5. 山荘・行楽地		19. 商作物		28. キャンプ用地		32. 共同建設隊		48. 教師訓練	
6. 季節祭典		20. 灌漑用水		29. 健康診療		33. 資金分割負担		49. 地域幼稚園	
7. 休暇村		21. 地域再編成		30. 衛生管理強化		34. 金融		50. 生涯技術	
8. 観光客センター		22. 産業用地		31. 道路維持		35. 資金投下		51. 老人大学	
9. 食品加工		23. 商業施設		32. 共同建設隊		36. 市場開発		52. 文化発表	
10. 鉱山資源		24. 住宅復旧		33. 資金分割負担		37. 公民館			
11. 部品組立工業		25. 環境美化		34. 金融		38. 地域のお祭り			
12. レクリエーション産業		26. スキー場		35. 資金投下		39. 大タ張広報			
		27. 河岸開発		36. 市場開発		40. 地域コミュニケーション			
		28. キャンプ用地		37. 公民館		41. 技術教育			
		29. 健康診療		38. 地域のお祭り		42. 経営管理			
		30. 衛生管理強化		39. 大タ張広報		43. 農場経営			
		31. 道路維持		40. 地域コミュニケーション		44. 手工業技術			
		32. 共同建設隊		41. 技術教育		45. 訓練指導			
		42. 経営管理		46. 青少年参加		46. 青少年参加			
		43. 農場経営		47. 指導者交換		47. 指導者交換			
		44. 手工業技術		48. 教師訓練		48. 教師訓練			
		45. 訓練指導		49. 地域幼稚園		49. 地域幼稚園			
		46. 青少年参加		50. 生涯技術		50. 生涯技術			
		47. 指導者交換		51. 老人大学		51. 老人大学			
		48. 教師訓練		52. 文化発表		52. 文化発表			
		49. 地域幼稚園							
		50. 生涯技術							
		51. 老人大学							
		52. 文化発表							

経済構造：実施プログラム 1

林業関連産業

経済的基盤を広げようとする地域社会にとってことの成否の鍵となるのは新しい利潤の上がる産業をいかに多く作りうるかである。大夕張は何マイルも続く森林のある丘や山々の間に位置している。町を取り巻く多量の森林資源は森林開発計画のための主要な資源となるであろう。材木や家具や様々な木製品に対する市場での高い需要があれば、この事が大夕張にとっては実行可能な計画となり得る。近代的林業経営において仕事が増えると町での専門技術のレベルが高まることになる。これにより順次地域の未来商工業開発に必要な技能者の集まりを作りやすくなる。このプログラムの目的は、地域外からの資本を導入するに十分な工業分野での事業を創造することである。なぜならそれは地域の使用可能な天然資源と技術に基づくからである。

林業関連産業は4つの要素で構成されている。

第1に、製材工場プログラムでは、周囲の森林から切り出された原木を粗く製材し、乾燥させる。また一般建設用あるいは建築用部材も生産する。

第2に、加工品プログラムでは、様々な木製部材を加工し、パネル加工、フローリング加工、また、棚やテーブルのような基本的な家具に、特殊染料、合板、ラッカーで仕上げる。

第3に、家具生産プログラムでは、夕張木材から良質の家具類を製造する。そこではテーブルのように基礎的な種類のもの、腰掛、椅子のような中型のもの、戸棚、本箱、寝室家具のような大型の家具を製造する。

第4に、木材副産物プログラムでは、製造する時に出る木切れを利用して、プレスボード、チップボード、チップ、紙パルプ、木炭、箸、つまようじを製造する。これによつて工場に搬入された原木は最高に無駄なく利用されることになる。

原木契約は、農林省とすぐに締結され、工場に原木を供給し、10月15日までに6ヶ月分が備蓄されることになる。丸鋸やトロリーのついた木材製造工場の建物と設備は8月1日までに始められ、9月30日までに完成することになる。仕上げ工場や家具工場に帯鋸、ベンチ鋸、仕上げ用のサンダーや道具が取り付けられる。生木乾燥や残り木片の保管場所も作られる。7月31日までに全労働者に対して訓練が始められ、秋には職人大工が、家具工場で働く労働者を訓練するために雇われる。製材所や工場の地域出身の経営者も訓練され、秋までに商業生産を始めるよう、テスト操業が10月中になされることになる。当面、廃材は王子製紙に、未処理のまま売却される。しかしながら、このような副産物関係の操業は1978年5月ごろまでにフル生産が開始されるであろう。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 1 第5B表
林 業 関 連 産 業

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別 \ 年 度		本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
			第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	丸 鋸	2,100			
	ホイスト	600			
	木工工具	1,680	480		
	旋 盤	600			
	ウッドチップパー		1,800		
	ボードプレス		1,500		
	事務機器	150			
	資本投資 - 小 計	5,130	3,780		
II 人 件 費	補助員給与, 1 名	1,800	1,800		
	現地支配人, @ -	3,600	5,400	1,800	
	現地住民賃金	16,200	25,200	9,000	
	現地キャビネット・メーカー・1 名	1,800	1,800		
	人 件 費 - 小 計	23,400	34,200	10,800	
III 諸 経 費	事務用品	90	120	60	
	備 品	150	180	90	
	維 持 費	90	150	60	
	諸 経 費 - 小 計	330	450	210	
プログラムコスト 合 計		28,860	38,430	11,010	

経済構造：実施プログラム 2

観光設備の開発

大夕張の過去の経済を物語るその歴史は、天然資源の石炭にまつわるものであった。どんな地域経済も経済基盤のために自然環境を利用する能力に大きく依存するものである。「観光施設の開発」は、大夕張にその大自然環境を使つて、もう一度大夕張経済の利益を計ろうとするものである。大夕張をとりまく山河の、自然に備わった美しさと共に、冬期、夏期の利点を活かすために、観光設備が建設され、年中できるスポーツ活動も、日本中から集まる人々を魅了するように計画される。絶えず観光客が訪れるという事は、一年中を通して様々な観光設備において多くの地域住民が働けるということであり、そのような企画によつて、どんな地域の生活も可能となり、そこでの経済開発を操作できることとなる。

「観光設備の開発」は、4つの要素で構成されている。

第1に、山荘行楽地プログラムは、大夕張における観光施設を向上させる。観光客宿泊のための高級山荘、スキー場、温泉地が設備され、また山間を走る河川のそばにはバーベキューやピクニックのできる場所も整える。

第2に、季節祭典プログラムは、地域の祭典を盛り立て、観光客が参加できるようにする。このプログラムは、雪祭り、夕張山祭り、大夕張正月祭りを含む。

第3に、休暇村プログラムは、家族団らん、青少年キャンプ、他の休日を楽しむ人々のために、手頃な価格で年中無休の宿泊施設を備える。また観光客の快適さを基本的に満足させるような建物や設備もこのプログラムに含まれている。

第4に、観光客センタープログラムは、山間、山頂に最高級のレストランを設置する。このプログラムは、土産物店、観光客のために名所めぐりのツアーを組む観光案内所も作る。

最初に、スキーの出来そうな傾斜面のそばの、住む人のない家について三菱商事と交渉し、冬休みの間、山小屋として使えるように秋には改築が始まる。改築には、水、電気等を再び利用可能とすること、室内装飾を含む。スキーシーズン開幕の最初の週にスキー場売店が開かれる。それは休暇村とスキー場に隣接した所に位置する。スキー、スキー靴、その他の冬期スポーツ用品は貸すことも売ることできるように購入される。大夕張正月祭りの特別催物の組織は11月に始まる。雪祭りの特別出しものも新年早々に企画される。春には夏期利用に備え、バーベキューやピクニックのできる場所が建設される。春の間に、山荘や観光客センターが完成される。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 2 第5C表
観 光 施 設 の 開 発

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別	年 度	本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
			第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	バーベキュー & ピクニック施設	600			
	温 泉		1,500		
	スキーロッジ	7,500			
	観光センター		3,000		
	休暇小屋	7,500			
	スキーショップ	300			
	家具調度品	4,500			
	資本投資 - 小 計	20,400	4,500		
II 人 件 費	現地支配人	1,800	1,800	1,800	
	現地住民賃金	12,600	18,000	7,200	
	補助員給与, 1 名	1,800	1,800		
	人 件 費 - 小 計	16,200	21,600	9,000	
III 諸 経 費	在 庫	1,500	600		
	事務用品	90	90	90	
	維持費	300	450	300	
	諸 経 費 - 小 計	1,890	1,140	390	
プログラムコスト 合 計		38,490	27,240	9,390	

経済構造：実施プログラム 3

新しい工業の導入

「新しい工業の導入」は、地域内での求職求人を増加させなければならぬという大夕張住民の必要から生まれたプログラムである。この計画の目的は今まで試みられなかった種類の地場産業を開発したり、また地域外の大製造会社到大夕張にも利益を生むような事業所を設置してもらうことである。これにより、住民が長年待ち望んでいたような、復興の経済基盤が確立することであろう。地域の大自然から取れる産物を缶詰にしたり、川の石をみがいたり、新たな鉱産物の採掘に投資したり、娯楽設備の製造工場や部品組立工場をつくる等のことはすべて現在の大夕張において可能である。新しい工場誘致計画は大夕張の製品が地域外へと販売され、大夕張に健全なキャッシュフローを起こすよう資本を導入しようとするものである。

「新しい工業の導入」は4つの要素で構成されている。

第1は、食品加工プログラムで、その地域の内部や外部で販売し得るような食品を加工し、包装するものである。その地域で取れた養魚類、野菜類、果物類等を塩漬、ジャム、漬物、缶詰・箱詰等にする。

第2は、鉱山資源プログラムで、大夕張地域の鉱産物、岩石類、準宝石類に商品価値を与え、市場へ送り出すための事業を興こそうとするものである。

第3は、部品組立工業プログラムで、大夕張に工場を建設するよう広く企業に働きかけ、機械部品、電気・電子部品、その他技術関係の製品の組立ないしは製造を盛んに行なわせようとするものである。

第4は、レクリエーション用品産業プログラムで、スポーツ用品やレクリエーション用品の産業を地域内に興こし、レクリエーションやスポーツや体育関係の設備を、たとえば野球のバット、ベース、釣竿、飛び箱、マット、平均台、鉄棒、スキー用品、ハイキング用品等何でも作るというものである。

夏の間三菱鉱山と共に大夕張周辺の完全な地質調査を行ない、主としてプラチナの埋蔵量が有望かどうか、準宝石や岩石が細工されて商品となりうるかどうかを調査する。レクリエーション設備の製造工場はこの秋に用地が決定して建設が始められ、冬の始めに完成することとなる。小さな動力鋸、サンダー、木工旋盤、工業用ミシン、電子溶接等の工具や設備は冬の操業のために準備されるであろう。現地の労働力を訓練し、職人も募集して生産に備えることとなる。会議の次の週には夕張市の都市計画担当者が工場用地を指定し、大夕張に春の後半までに、時計、電子部品、機械製造等の工場ができるよう、各企業との交渉に入る。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

ICAコンサルタント

[単位：千円]

プログラム 3 第5D表
新 し い 産 業 の 導 入

種 別		年 度	本 年 度	概 算 予 想 費 用		
			予 算	第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	プラント開発費		3,000			
	機 器 類		1,500	600		
	資本投資 - 小 計		4,500	600		
II 人 件 費	現地支配人, 1 名		1,800	1,800		
	補助員給与, 1 名		1,800	1,800		
	現地住民賃金		9,000	9,000		
	地質調査費		3,600			
	人 件 費 - 小 計		16,200	12,600		
III 諸 経 費	事務用品		90	150	90	
	工 具		150	180	150	
	旅費交通費		80	90	90	
	諸 経 費 - 小 計		420	420	330	
プログラムコスト 合 計			21,120	13,620	330	

経済構造：実施プログラム4

中小企業再興

どんな地域社会においても、急速な経済発展の為に、その地域に入つて来た貨幣が流出する前に、頻繁に又円滑に流通することが必要である。「中小企業再興」は、まさにこの大夕張の経済に刺激を与えるものとなる。各地に散在している商店よりも、小さな商店がそれぞれ客の便宜を考えて寄り集まっている様な小売店の方が、客にとっては魅力的なものである。その上、この企業計画により、様々な商品の価格も下がり又商売の拡張も起こつて来る。その効果というのは、地域の人々の将来に対する夢がはつきりしてくる事であり、大夕張というものが近代的な活気に満ちたセンターに、すっかり変わってしまうということである。だからこのセンターは、どんな小さな地域社会であろうと、この様な経済生活ができるのだというすばらしい前例といえる。その上さらに、大夕張は、又商人とお客にとつても、商売するのに驚くほど刺激と活気に満ちた場所となりうる。

「中小企業再興」は4つの要素で構成されている。

第1に、商店街アーケード設置プログラムにより、現在ある商店が改善され、小企業や施設も増えることになる。この計画はあらゆる商業地区の改善を含み、セルフサービスのクリーニング店、子供達の遊び場、青果市場の様な売場を含むお客へのサービスに関する総合ショッピングセンターの開発をも含む。

第2に、食品供給プログラムにより、広い喫茶店、食堂街が生まれる。ここには、簡易食堂、コーヒーショップ、レストランがある。

第3に、共同輸送プログラムにより、地元の生産物を外部に送り出し、同時に、地元の商業や商店に必要な様々なものを地元に戻すことになる。また、千歳空港から、大夕張の観光地に向けての観光バスルートが開設され、それに伴ない、その地域には観光施設も広がりゆくのである。

第4に、木製品プログラムにより、地元で出来る木材やその根本を用いて観光客向けの商品を、職人に手作りさせることになる。

この地域開発に引き続き、夏と秋の週末には大夕張発展のため共通のテーマを持ちながら、地域商店主達は組織的に店舗の内外を改善してゆく。同時に、富士見町商店街の主要な場所にはアーケードも作られる。アーケードは雪を溶かすためのスチームパイプの通ったトタン屋根で出来ている。落ちついた光の蛍光灯も取り付けられることになる。冬の初めまでには、セルフサービスのクリーニング店が、廃業した店舗に作られる。同様に、観光シーズンの開始にそなえて、簡易食堂、コーヒーショップ、手工芸品店が次々と設備されてゆく。共同輸送プログラムにより二軸タイヤ10トン・ディーゼルトラックが用意され冬期の生産活動が始まるまでに、運転手も雇われることになる。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 4 第5E表
中 小 企 業 再 興

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別		年 度	本 年 度	概 算 予 想 費 用		
			予 算	第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	店 舗 新 改 装		3,000			
	自 動 洗 た く 機		600			
	コ ー ヒ ー ・ シ ョ ッ プ		450			
	民 芸 品 店		300			
	店 舗 設 備		1,650			
	ト ラ ッ ク , 1 台		7,500			
資 本 投 資 - 小 計			13,500			
II 人 件 費	補 助 員 給 与 , 1 名		1,800	1,800		
	現 地 住 民 賃 金		9,000	7,200	1,800	
人 件 費 - 小 計			10,800	9,000	1,800	
III 諸 経 費	事 務 用 品		150	70		
	維 持 費		600	1,200	750	
	電 気 ・ 水 道 代 等		600	600	180	
諸 経 費 - 小 計			1,350	1,870	930	
プ ロ グ ラ ム コ ス ト 合 計			25,650	10,870	2,730	

経済構造：実施プログラム 5

共同農業開発

「共同農業開発」は、大夕張の将来の発展のために、広範囲の経済的基盤を作る様に計画されている。経済的变化が急に起こった場合、1種の産業にのみ頼っている地域ではその産業が失敗すると全くの麻痺状態に陥入ってしまう。大夕張は、多面的な経済構造を作る必要に迫られている。市場において、大夕張がその他の地域と自由に競争できる様にすることが、このプログラムの意図するところである。大夕張の人々は、炭鉱で重労働に慣れ又極寒の厳しさにも耐えるということに世に知られている。ねばり強い精神はすでに広範囲で実施されている野菜作りや盆栽作りからもうかがわれる。最も効果的かつ利益の上がる農業技術を習得しようと協力することにより、全員がより多くの収穫を得る様になる。このような農業計画により牧畜、養魚、農産物、植林に見られる農業経営の多様化がなされ、全地域の拡大計画にも大いに役立つことになる。

「共同農業開発」は、4つの要素で構成されている。

第1に、共同農業プログラムにより商品化の可能な作物を生産し、又地元の農家において最も近代的農業技術を教え合うことになる。またこのプログラムにより、農業機械や道具が持てる様な共同体を作り、又適切な利益の上がる作物を、新たに実験栽培できる様な老人のための畑を、作ることになる。

第2に、家畜飼育プログラムにより、大夕張内外に売り出すために保存しておく改良された家畜や魚を選定する。適当な冬の畜舎、飼育プログラムがここに含まれ、又予防注射や検診による十分な健康診断設備も含まれる。

第3に、商品作物プログラムでは、各種の促成栽培の木々、果樹、寒気に強い作物などを作ることになる。

第4に、灌漑用水プログラムにより、新しい農地に絶えず水が流れ続け、必要な地域には、十分な水量を保つ貯水池や水路も作られることになる。

大夕張盆地の地質や気候に適した作物について助言を得るために、夕張市にある北海道庁農業センターと最初の連絡がなされた。三菱炭鉱株式会社が、種の供給及び、種のまき方や温室植物栽培の指導を扱い、その用地は、協同建設隊によって準備される。地域で使用出来る器具類は、大夕張の老人達が集めることになっている。2台の耕耘機及び播種機を購入する予定である。盆栽に興味のある人々は、盆栽販売業を始めるために集まりを開く。灌漑用水計画については、町づくり計画委員会が、灌漑予定地での調査の間に決定がなされる。貯水池及び水路は、協同建設隊によって作られる。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 5 第 5 F 表
共 同 農 業 開 発

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別 \ 年 度		本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
			第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	灌漑システム	15,000			
	家畜の飼育	1,500	600		
	トラクター, 2 台	1,800			
	農場設備	1,200			
	家畜小屋	1,500	300		
資本投資 - 小 計		21,000	900		
II 人 件 費	現地支配人, 1 名	1,800	1,800	900	
	補助員給与, 1 名	1,800	1,800		
	獣医費	450	300		
人 件 費 - 小 計		4,050	3,900	900	
III 諸 経 費	種 子	150	150	60	
	維持費	300	300	180	
	事務用品	60	60		
諸 経 費 - 小 計		510	510	240	
プログラムコスト 合 計		25,560	5,310	1,140	

物的構成：実施プログラム 6

建造物新設

自分達の地域社会の再建を目指して集まってくる人達に、新しく必要と認められる建物を手に入れる時が来た。「建造物新設」は、建物の敷地として利用出来る場所が充分にあることを、住民達に再認識させる。大夕張には、不足している大部分の公共及び商業用建物の必要性を充たすことが出来る程の多数の空屋がある。この新設計画は、それぞれの建物の新しい用途に従って、必要な復旧及び改築作業を行う。また、地域社会の他の部分と調和のとれた新しい産業用建物及び個人住宅を建設する。建造物新設活動によって、集会場、祝賀会場、店舗、住宅の場を新設するのみならず、現在の放棄された状態から、豊かな未来へと動いてゆく地域社会の動向を示す物的証拠を示すこととなる。

「建造物新設」は、4つの要素で構成されている。

第1に、地域社会構造再編成プログラムでは、市民の広場と外部団体のための設備の整った会議場を設計し建設する。同時に、図書館の増設、大集会場、屋内での冬期スポーツ用レクリエーションセンター、美術館、公衆浴場、トレーニングセンター及びその他の付随施設を増設するなど、現在ある施設を拡張する。

第2に、産業用地プログラムによつて、工場建設指定地域に建物を新設する。水道、電気も完備される。

第3に、商業施設プログラムでは、中小企業の需要を満すためのレストランや商店街を新設する。現在使用されていない家屋は、家内工業用に改築される。

第4に、住宅復旧プログラムでは、下水、衛生施設、及び、暖房設備を完備したモデル住宅を建設する。また、町の周辺に散在する住宅を中心部へ移転する。

夕張市都市計画担当者との会見日が、会議終了後、直ちに設定された。実施の最初の月間には、すべての現存する設備、及び、計画中の設備を記載した青写真を作成する。続く4年間の建設・改築工事完了のための計画表が作られる。製材所及び家具製造工場を建設するための重要な工事が八月に始まる。直ちに、食品加工会社に向けて、工場誘致運動を開始する。晩秋に収穫出来るアスパラガス、夕張岳のワラビの加工・包装に間に合うよう工場を建設するため、7月には用地が選定される。大夕張商店連合会は、商売拡張の計画を練るため、7月中に会合を持つ、モデル住宅は、地元の建築家によつて設計され、建設開始に必要な資材は、8月1日には入手出来るようになっている。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 6 第 5 G 表
建 造 物 新 設

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別		年 度	本 年 度	概 算 予 想 費 用		
			予 算	第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	製 材 所		4,500			
	副産物工場			3,000		
	家 具 店		1,500			
	工 業 用 地		1,500	1,500		
	モデルホーム		1,500			
資本投資 - 小 計			9,000	4,500		
II 人 件 費	現地支配人, 1 名		1,800	1,800	900	
	補助員給料, 1 名		1,800	1,800		
	技術コンサルタント		1,500	1,500		
人 件 費 - 小 計			5,100	5,100	900	
III 諸 経 費	事 務 所		180	180	30	
	維 持 費		300	300		
諸 経 費 - 小 計			480	480	30	
プログラムコスト 合 計			14,580	10,080	930	

物的構成：実施プログラム7

公共施設開設

「公共施設開設」は大夕張の外的環境を一変させることを目指している。眼に訴えてくるものとして、夏には色とりどりの花が咲き乱れる緑地帯をあちこちに配し、家々の前後の庭に丹精をこめて花や緑で飾るといった事が挙げられる。周囲の山々や近くの河や湖で空いている場所をうまく使って絶好の夏や冬の休養地を作り、多くの人に新しい大夕張に来てもらう計画もある。公共の土地を住民やこれからやってくる人々にとって、より魅力あるものにすれば、大夕張の美しい自然に対する新たな誇りを一層強めるのにも役立つ。どんな地域でも外的環境を効果的に扱う時、その決断が力強いものとなる証明を、これらの計画を通じて大夕張はしようとしている。

「公共施設開設」は、4つの要素で構成されている。

第1に、環境美化プログラム。公共の花壇、公園を町に作る。街路及町周辺の風景を美化、再整備する。

第2に、スキー場プログラム。現在、大夕張にあるスキー場を拡大し、中級者向、上級者向コースを作る。初心者用ゲレンデには、ロープ・リフトを作り、普通のリフトでさらに高い所にあるゲレンデに人を運ぶようにする。

第3に、河岸開発プログラム。河岸に岸釣りのできる場所を設ける。又、小さな舟の舟着場を作る。

第4に、キャンプ用地プログラム。キャンパー達の便を考え、駐車場、公衆便所、水道、燃料の貯蔵所を作る。山を巡るハイキング路、サイクリング道路を作る。

「公共施設開設」は、まず緑と白に掲示板を塗り、大夕張のシンボル・マークを描き込む事から始った。実施第一週内には、児童館の湿った運動場を乾かせるべく迂回水路が掘られ、主な道路沿いにゴミ箱が設置される。市役所の建設青写真に、花壇・公園が加えられ、建設は8月に開始される。季節毎のお祭り行事には、特別の飾り付けを沿道にする。最初の一カ月内にスキー用地の選定が行なわれ、8月には土地の整備がワークキャンプによつて始められる。スキーリフト及び、その附帯設備は9月に建設開始となる。キャンプ場、魚つり場の設定について、林野庁に申請がなされる。ハイキングコースと公共設備の案内板と標識を立てる。河川での魚釣り、ボート使用許可を関係官庁から取得する。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

ICA コンサルタント

〔単位：千円〕

プログラム 7

第5H表

公 共 施 設 開 設

種 別		年 度	本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
				第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	チェア・リフト		10,500			
	ロープ・リフト		2,700			
	娯楽施設		1,500			
	資本投資 - 小 計		14,700			
II 人 件 費	補助員給料, 1/2 名		900	900		
	現地住民賃金, 3 名		5,400	5,400	1,800	1,800
	人 件 費 - 小 計		6,300	6,300	1,800	1,800
III 諸 経 費	事 務 所		150	150	30	30
	事務用品		270	270	270	270
	維持費		600	600	600	600
	諸 経 費 - 小 計		1,020	1,020	900	900
プログラムコスト 合 計			22,020	7,320	2,700	2,700

物的構成：実施プログラム 8

特別サービス網

「特別サービス網」は経済的公共的な諸サービスを町に結びつけようとする努力である。住民は、住民及び観光客、来訪者が共に常時利用できる完備された医療態勢が必要であることを表明してきた。常駐の医師、救急車は診療所には全く欠かせぬ要素である。大夕張では、長い冬の6ヶ月間に15mの積雪があるため、日常生活及び地元の産業の維持には、除雪機、耐雪家屋、舗装道路は絶対不可欠である。これら一連の施設、サービスが実現されれば、地元の人々を時間の浪費から解放すると共に新しい住民や企業にとっても魅力となるため、この計画は大夕張の社会経済発展に重要な役割を果たすだろう。

「特別サービス網」は四つの要素で構成されている。

第1に、健康診療プログラムでは各種の医療機関を、最新の器具を擁し、救急サービス及び各種の専門科を持った総合病院に仕立て直すことを目的とする。このプログラムには専門の医師、看護婦チーム、地域内のボランティア達、外部の保健機関も含まれる。

第2に、衛生管理強化プログラムでは老化して詰まった下水管を強力な下水処理設備に取り替える。それに各戸の水洗便所を連結させる。

第3に、道路維持プログラムでは現在の地道をタールで舗装する。降雪期には、側道及び個人住宅に通じる道を除雪し、指定投棄場に運び、除雪車を確保する。

第4に、協同建設隊プログラムでは、道路や草地の維持をしながら、住民の実地作業訓練を行う。大夕張全域の建設計画のための労力提供部隊を組織する。

「特別サービス網」達成の第一歩として救急車の寄贈を要請するため、地元の奉仕団体と折衝がなされる。会議中に訪れた札幌医大の先生が、医療に必要な人員計画を調査すべく次の週に再度訪問することになっている。現在の医療施設を復旧する為の基金が募集され、内部修復が6ヶ月以内に手がけられる。特別の診療や設備の供給について、役所関係の保健機関と相談する。大夕張の下水設備をどの型式に決定すべきか研究がなされる。この町で衛生管理にあたっている人々が現在の下水の故障回数を減らす計画をたてる。最新式水洗便所が必要な場所に取り付けられる。市の道路工事部門と協力するために協同建設隊が組織され、道路の舗装、維持に必要な道具が全て入手される。除雪機も入手される。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

ICA コンサルタント

〔単位：千円〕

プログラム 8 第 5 I 表
特 別 サ ー ビ ス 網

種 別	年 度	本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
			第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	スノー・ブロー	3,000			
	病院の改築	7,500			
	公共水洗トイレ	750			
	排 水 設 備	1,500			
	救 急 車 , 1 台	3,000			
資 本 投 資 - 小 計		15,750			
II 人 件 費	補助員給料, 1 名	1,800	1,800		
	看護婦給料, 1 名	1,800	1,800	1,800	
	現地住民賃金	1,800	1,800	1,800	1,800
	看護婦見習い	900	1,200	1,500	1,800
人 件 費 - 小 計		6,300	6,600	5,100	3,600
III 諸 経 費	事 務 所	150	150	150	150
	医 療 費	600	600	600	600
	維 持 費	1,500	1,500	1,500	1,500
諸 経 費 - 小 計		2,250	2,250	2,250	2,250
プログラムコスト 合 計		24,300	8,850	7,350	5,850

社会構造：実施プログラム 9

大夕張開発協議会

経済的な基盤を拡充するために、その地域の資源や住民の力が有効であることを知ることは、住民の自立に対する自信のもとになる。大夕張の市民がこのような自覚をもてば、激しい市場競争にも勝ちぬくことができる。鉱業、林業、メロン栽培において明らかなように、その地域の資源を利用した開発というものが常に大夕張の生活の基盤であった。現在、大夕張の住民は一体となって大夕張の経済的發展に寄与できるような組織をつくりあげようとしている。「大夕張開発協議会」は、地域の内外から財源や市場分析に関する情報を集め、地域の一体的発展を目指している。このように組織的に集められた経済力は、地域の新たな飛躍の基盤となるであろう。

「大夕張開発協議会」は、土地や開発による利益を共同管理するために、4つの計画を実行するための総合的な組織づくりを行なう。

第1に、資金分割負担プログラムでは、全住民の参加を前提に、必要資金を大夕張住民の労力奉仕や資金援助でまかなうとするものである。

第2に、金融共済プログラムでは、開発協議会への参加を条件に、個人や家族へローン貸出しを行なう。この金融機関は同時に全ての住民の預金も受入れる。

第3に、資金投下プログラムでは、大夕張地域の社会開発や施設建設、農業改良事業及び産業商業の開発のための資金集めと投資を行なう。この計画では、種々のプロジェクトの進行状況の評価や、可能性の検討も行なう。

第4に、市場開発プログラムでは、地域でとれる産物の直接流通機構を確立する。又この計画ではすべての大夕張地域の企業に、市場調査情報を提供する。

会議にひきつづき大夕張住民で組織された資金調達チームは、経済分野のアドバイザーや、大夕張在住のICAスタッフと共に主な地域計画の資金援助のやり方の決定や、必要資金確保のため企業、個人、役所への働きかけを始める。道庁や大企業への訪問によつて、地域産物の重要な市場が確保され、宣伝活動によつて新しく開発される産物の販売力が高められるであろう。住民グループと法律、経済関係のアドバイザーおよびICAスタッフとが、開発協議会の株式発行の基本案を作成する。計画開始にあたって寄贈された土地、資金、労力はすべて記録され、その後の進行にともなう変化も常に最新の状態に記録される。協議会事務所には、常勤スタッフを置き、ファイル、電話、タイプライター、事務用品、及び車も用意される。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 9 第5J表
大 夕 張 開 発 協 議 会

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別		年 度	本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
				第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	事務機器		750			
	自動車, 1 台		1,800			
	事務所改装		300			
資本投資 - 小 計			2,850			
II 人 件 費	現地支配人, 1 名		1,800	1,800	900	
	補助員給料, 1 名		1,800	1,800		
	現地雇事務員, 1 名		1,500	1,500	750	
	コンサルタント費		1,500	1,500		
人 件 費 - 小 計			6,600	6,600	1,650	
III 諸 経 費	事務用品		150	150	150	
	旅費交通費		300	300	150	
	販売用具		600	300	300	
	維持費		150	150	150	
諸 経 費 - 小 計			1,200	900	750	
プログラムコスト 合 計			10,650	7,500	2,400	

社会構造：実施プログラム 10

地域活動センター

すべての効果的な地域開発は、日常の社会生活において、お互いの共通性を新しく発見し、それを表現することによって、その成果はかゝっている。大夕張の住民は歌や祭りを通じて、豊かな地域社会を表現する固有の特質を持っている。「地域活動センター」は、開発への熱意を持続させ、共同活動への参加の風潮をつくり出す。このセンターを通じて、地域住民は社会的な係わりを多く持ち、地域の意志を反映する重要な決定の場に参加する。センターはまた新しい大夕張の力強いイメージを、大夕張を訪ねる人や、地域開発に興味を持つ企業の代表者達に印象づける役割もになる。このプログラムは地域生活の存続維持と、それを広域の社会構造に結びつけることを可能にする。それゆえ、このプログラムは地域住民の参加への意欲を引き起こす鍵となるであろう。

「地域活動センター」は4つの要素で構成されている。

第1に公民館プログラムでは種々の地域ミーティングを取り決める。それは年4回の地域会議、月毎のタウンミーティング、婦人やビジネスマンのための特別講義等である。また全地域の活動や、働く日を調整することも含まれる。

第2に地域のお祭りプログラムでは、地域のピクニック、踊り、あるいは帰省の祝いや、1979年の市制50周年記念のような特別の行事を企画実行する。

第3に大夕張広報プログラムでは、外部の企業を大夕張に誘致したり、特別のグループだけでなく、一般にも宣伝活動を行なうことにより、大夕張の新しいレクリエーション地区に観光客を呼び込む活動を行なう。新聞その他の公共的広報機関を開いたり特別なキャンペーンも行なわれる。

第4に地域コミュニケーションプログラムでは、週刊の新聞、地域活動カレンダー、掲示板、道路標識、地域のシンボルを作成したり重要な事項の発表、商店主のための新聞等の特別な刊行物の発行をも行なう。

計画実施週間には、大夕張在住のICAスタッフも地域の有志の人々に参加し、会館を恒久的な市民会館として使用できるよう三菱鉱山に要請する。建設グループは、この大ホールの北端にベンキを塗り、そこに適当な地域のシンボル、地図、図表を掲示する。応接室、会議室、印刷作業室を備えた宣伝コミュニケーションオフィスが、地域の中心部に作られる。和文タイプが備えられ、住民で、和文タイプのできる人の奉仕が受けられる。地域の内外への刊行物のためのオフセット印刷機や、紙その他の備品が調達される。最初に発行される「声」には、大夕張人間開発計画の重要なプログラムに関する資料がのせられ、地域会議の発表が行なわれる。その会議で、各家庭へ、日本文の記録が配られる。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

ICA コンサルタント

[単位：千円]

プログラム 10 第5K表
地 域 活 動 セ ン タ ー

種 別		年 度	本 年 度	概 算 予 想 費 用		
			予 算	第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	事務所用家具		300			
	事務機器		600			
	センター改築		1,500			
	資本投資 - 小計		2,400			
II 人 件 費	現地支配人, 1 名		1,800	1,800	1,800	900
	補助員給料, 1/2 名		900	900		
	現地雇事務員, 1 名		1,500	1,500	1,500	750
	人件費 - 小計		4,200	4,200	3,300	1,650
III 諸 経 費	事務用品		240	240	240	240
	旅費交通費		300	300	300	
	広告その他		1,200	1,200	300	150
	維持費		240	240	240	120
	諸経費 - 小計		1,980	1,980	1,080	390
プログラムコスト 合 計			8,580	6,180	4,380	2,040

社会構造：実施プログラム 1 1

職業技術訓練

技術革新では世界の指導的地位を占める程までになった日本の発展振りは見事であるが、新しい経済の世界に可能性のみでなく複雑さをももたらした。日本の高度に技術的な労働市場の中で大夕張の住民は、都市の工業化が自分達の失業問題にどのような影響を及ぼすかを身をもって経験した。鉱業や農業では、この地区の住民が相当量の工業技術や専門知識を持っていることはすでに証明されている。大夕張自体の労働力の中から成長の余力をもつ人材を、新しい商業や農業関連産業のために育成してゆくには知識集約産業の技術が必要である。旧式過ぎる技術と、競争の激しい労働市場でも生きることのできる新しい技術とのギャップを埋めるには経営や生産の実際的な技術が必要である。職業技術訓練は、実際的な企業内訓練を行ったり、現地の有能な技術者やビジネスマンを多数登録、斡旋したり、また、学校教師が豊富な教育技術を有効に利用できるようにするものである。

「職業技術訓練」は、4つの要素で構成されている。

第1に技術教育プログラムでは、機械、電気、その他種々の技術教育を行なうものであって、製図、自動車修理、大工、洋服仕立等の教室は現地の教師が教え、他の分野での教育訓練や指導は専門家を招いて行なう。

第2に経営管理プログラムでは商業、事務所管理、経営等の教育を行ない、住民、特に新たに事業を始める人々にタイプ、簿記、そろばん、商業英語等を教える。

第3に農場経営プログラムでは、効率よい農業や牧畜を教え、地域内の農家に農作物の選定、土壌の取扱い、造園技術、共同経営の方法等について教育訓練を行なう。

第4に手工業技術プログラムでは、手工芸品のデザインや作り方を教え、玩具や手工芸品の製造を通じて、小さな家内工業の分野を指導するものである。

「職業技術訓練」の第1段階は技術、ビジネス両講座が開設されることを新聞に発表し、9月開講分の申込を受付けることである。タイピスト養成講座と簿記講座には南大夕張高校の商業科目担当の先生を、また製図講座には夕張工業高校の先生をお願いすべく交渉する事となる。その他、住民の中には同じような講座の講師となれる人々がいるはずである。農家の人々と北海道大学農学部の教官とがモデル実験農場で何を栽培するかを決める会合も開かれることになっている。その農場は10月までに着手され、農業の実習訓練に重要な役割をはたすこととなる。北海道各地の民芸センターを7月と8月に訪問し、9月には各センターから派遣された人達が大夕張に実習講座を開き、開講式にはこの方面の無形文化財である名士が出席する。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

ICA コンサルタント

[単位：千円]

プログラム 11 第5L表
職 業 技 術 訓 練

種 別	年 度	本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
			第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	教育訓練用具	600			
	技 術 設 備	750			
	資本投資 - 小 計	1,350			
II 人 件 費	補助員給料, 1/2 名	900	900		
	現地雇教師, 1/2 × 4 名	3,600	3,600	3,600	3,600
	人 件 費 - 小 計	4,500	4,500	3,600	3,600
III 諸 経 費	事務用品	450	450	450	450
	教育訓練用材	60	60	60	60
	維 持 費	450	450	450	450
	諸 経 費 - 小 計	960	960	960	960
プログラムコスト 合 計		6,810	5,460	4,560	4,560

社会構造：実施プログラム 1 2

指導者養成機構

「指導者養成機構」は、大夕張地域全域の社会、経済的発展のために活躍する、中心グループを形成する実能力的な能力のある幅広い層のリーダーを養成するものである。世界中からの知識のみでなく、知的経験や社会的な種々の物事の進め方の経験による効果的な指導により、その地域に適した社会、経済的発展計画案がまとめあげられる。すでに、大夕張には決断力があり真剣に指導者として、物事に取り組んでいく意志のある強力な組織がうまれている。大夕張の日常の生活環境の中で、指導者を養成してゆくのがこの計画の明白な目的である。このように、大夕張の人々は彼ら自身が持っている英知に対し自信を深め、又、大夕張は、どんな地域でも、その内に全く社会的に自立していける力を秘めていることを実証するだろう。

「指導者養成機構」は、4つの要素で構成されている。

まず第1に、訓練指導プログラムでは、地域社会におけるリーダーシップや、様々な地域の計画にたずさわっている人々に対する知的、社会的、実際の訓練方法を提供する。それは、町の集会やチームの集まりでのリーダーシップを作りあげるものである。

第2に、青少年参加プログラムでは、地域の若者に計画の活動的役割をになってもらい、実地の職業訓練を行い、又、休日をもうけ、色々な職業の経験を与え、グループ行事も行なうこととなる。

第3に、指導者交換プログラムでは、リーダーの交換をはかり、他の地域社会に参加することで指導力の拡大に努める。外国の開発計画地域への訪問も含まれている。

第4に、教師訓練プログラムでは、地域に教育機構を作りあげる。
この計画では、また、地域の教育者の教育協力を発足させる。

「指導者養成機構」は、韓国の済州島で開かれた世界人間開発大会に大夕張住民を送ることで始められた。

この種の指導者の交換は、今後12ヶ月にわたり、世界中で行われる予定の会議に、ひき続き地域の住民を送ることで続けられてゆく。

準備集会は夏の末までに行われる予定である。各準備集会では、地域社会が全体として計画案に責任を持つように、活動班が組織される。又、特別の夏の計画のため、若者グループが組織される。東京の立教大学の70人の学生と共に働いて、彼等若者は工事に従事したり、独自の指導経験をつむことになる。夏休み前に地域の63人の公立学校の先生の集会が開かれる。一般教育期間は、教育協会が地域に向けた教育モデルを作成することで開始される。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 12 第5M表
指 導 者 養 成 機 構

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別	年 度	本 年 度 予 算	概 算 予 想 費 用		
			第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	教育訓練用具	300	150		
	資本投資 - 小 計	300	150		
II 人 件 費	補助員給料, 1 名	1,800	1,800		
	現地住民賃金, 1 名	1,800	1,800	1,800	1,800
	人 件 費 - 小 計	3,600	3,600	1,800	1,800
III 諸 経 費	事務用品	150	150	150	150
	旅費交通費	1,200	1,200	600	600
	諸 経 費 - 小 計	1,350	1,350	750	750
プログラムコスト 合 計		5,250	5,100	2,550	2,550

社会構造：実施プログラム 13

生涯教育組織

明治維新以来、正式な教育に対する熱心な関心は、日本の社会の優秀なことを証明してきた。これにより、世界においても我が国は教育程度の高い国として認められている。この伝統と共に歩み、現行の学校教育プログラムを誇りとしながら、生涯教育組織は、小学生や青少年、成人、及び、老人のための補助的教育を通して、必要な社会の開発や技術の習得に重点をおいて進められる。小さな子供達を地域社会におけるその将来にそなえて教育することのほか、すでにその町にある現在の意志伝達の方法を広げてゆくため、文化や言語の分野において、さらに成人教育を押し進めてゆく。この目的は、文化的に異った世界の中での役割の、より明白な理解の手助けを、大々張の人々に対して行っていくことである。

「生涯教育組織」は、4つの要素で構成されている。

第1に、地域幼稚園プログラムでは、身体の発育、また、情緒、知能の発育のためのより実際的方法で、現在の保育所を拡充する。このプログラムは、また、保育さんの助手を訓練し、父兄の組織を作る。

第2に、生涯技術プログラムは、健康教育、家族管理、及び、家事技能の訓練を提供する。また、特別な食事療法や運動のプログラムを、キャンプやレクリエーション活動の指導と共に、地域の家庭全体に提供する。

第3に、老人大学プログラムでは、老人のグループを作り、勉強、小旅行、また、特別な計画を通じて、地域社会に参加する機会を与える。このプログラムは、地域懇談会を通じて、老人達をより大きな地域社会に結びつけてゆく。

第4に、文化発展プログラムでは、他の文化や日本の文化的遺産に目を向けるよう指導する。ここでは、読書、音楽、ダンス、及び、英会話等の楽しみを人々に知らせることとなる。

「生涯教育組織」は、7月に老人の集会をもち、老人大学を作ることから始まる。その最初のカリキュラムを協力して作り、専門外の教育分野に対しては顧問を設ける。保育所に対する訓練は、両親、教師、助手の実際的な教育ワークショップの実施と共に、プログラム実施後1ヶ月以内に始まる。健康管理における実際的訓練には、救急体制への手続きについて、及び、コンサルタントとして働く医師と共に病気の発見に努めること、また、歯の衛生管理が含まれている。雨の日には、特別の屋内活動が行われる。地域の女性が、料理、栄養学、被服製作、選択、及び、他の家事の技術を教える。文化活動の部屋が公民館に設けられ、芸能、文化調査センターとして、住民に提供される。

講演者、及び、芸能人の招待や映画会が定期的に計画され、新聞を通じて、地域社会に報知される。

OHDP

4 ケ 年 計 画
プ ロ グ ラ ム 予 算

プログラム 13

第 5 N 表

生 涯 教 育 組 織

ICA コンサルタント

[単位：千円]

種 別		年 度	本 年 度	概 算 予 想 費 用		
			予 算	第 2 年	第 3 年	第 4 年
I 資 本 投 資	教育訓練用具		150	150		
	幼児用教育設備		300	150		
	資本投資 - 小 計		450	300		
II 人 件 費	補助員給料, 1/2 名		900	900		
	現地住民賃金, 2 × 1/2 名		1,800	1,800	1,800	
	人 件 費 - 小 計		2,700	2,700	1,800	
III 諸 経 費	事務用品		150	150	150	150
	教育訓練用材		90	90	90	90
	旅費交通費		300	300	300	300
	諸 経 費 - 小 計		540	540	540	540
プログラムコスト 合 計			3,690	3,540	2,340	540

エピローグ

謝 辞

大夕張一地域・人間開発計画におきまして、下記の個人、市役所、各種団体、政府各機関、その他多数の方々の絶大な御支援、御協力を賜りまして、会議を成功裡に閉会できましたことを、文化事業協会関係者一同、心より御礼申し上げます。北海道知事・堂垣内尚弘氏、道会議員・石川十四夫氏、北海道庁石炭対策部長・辻勉氏、北海道夕張市長・吉田久氏、夕張市教育委員会教育長・千葉耕一氏、日本聖公会北海道教区主教・渡辺政直氏、北海道大学学部長・北村正直氏。また、この会議の計画実施の方法につきまして、多大の御協力を頂きました方々に厚く御礼申し上げます。清水沢暁の星の聖母教会神父・アダム・グダレフスキー氏、札幌マリア会。実地調査班を温く迎え、御協力下さいました各機関、及び、出張所の皆様方にも厚く御礼申し上げます。大夕張営林署、夕張市農業協同組合、夕張市園芸センター、長沼中央農業試験場、札幌商工会議所、夕張商工会議所、石炭対策本部、社会教育課、鹿島小学校、東小学校、大夕張中学校、大夕張高等学校、道立美唄専修職業訓練校夕張分校、道立工業高等学校、大夕張消防局、三菱バス、三菱大夕張詰所、シュウパロ湖ダム管理所、夕張市商工観光係、札幌医科大学、大夕張診療所、三菱南大夕張病院、夕張市役所鹿島出張所、夕張市企画部開発振興課。特に、我々を大歓迎し熱心にこの会議に参加して下さいました大夕張地区の住民の皆様方、厚く御礼申し上げます。又、会期中の交通機関、食事、その他必需品の調達をして下さいました大夕張開発対策委員会会長・佐藤宣一氏、会議実行委員会会長・佐々木定男氏及び会員各位の御協力に対し、そしてその他多数の市、及び職業団体各位、及び個人的な御参加、金品の御寄贈、及び貴重な時間を御割愛下さいました事に、感謝の言葉もございません。以下あげさせていただく通りです。日産自動車工業株式会社、ネッスル日本株式会社、明治乳業、デルモンテ株式会社、麗翠国際スキー場・ロイヤルロジグランド麗翠、日本航空、豊年リバー株式会社、ワシントンホテル、全日空ホテル、北海道酒造組合、北海道新聞社、夕張タイムス社、札幌中央卸売市場、シュルトントイレットリーズ、ドクターベッパ、カルビス食品工業、ジレットインターナショナル、サンド薬品株式会社、メレル株式会社、ペプシコーラ、ウィンスロップラボラトリーズ、読売新聞夕張支社、サントリー株式会社、阪神ライオンズクラブ、インガソラランド株式会社、アコモジャパン石油会社、モービル石油、シンガー株式会社、コダック株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン・ファーイースト、聖心インターナショナルスクール、アジア田園開発協会、近畿日本ツーリスト株式会社、丹羽

不動産株式会社、大関酒造株式会社、株式会社スワン、淳心会、岩住康郎、岡野龍郎、大野忠雄、北島節也、小谷年司、白壁傑昭、草野達臣、平生舜一、皆川節夫、村山幸弘、山縣平蔵、山中道宏、山本忠雄、高 雄二郎。

なお、調査報告書の印刷に御協力頂きました方々に厚く御礼申し上げます。

大阪商工会議所国際部長 杉本道夫氏

竹中工務店企画室室長 平生舜一氏

日本紙とパルプ株式会社 藤田氏

富士ゼロックス株式会社 田代泰利氏

日本アドレソグラフ・マルティグラフ株式会社大阪営業所所長 長坂隼雄氏

あさひ高速印刷株式会社 専務取締役 岡早苗氏

大阪南Y M C A 館長 岩坂正雄氏 石飛真美子氏

日本アイ・ビー・エム株式会社 山下光男氏

Gestetner Limited 大阪リジョナルマネージャー 池上勇二氏 西村清子氏

大日本印刷株式会社 嶋田憲氏

美術印刷株式会社常務取締役 近澤 直明氏

サンコー商会株式会社 生駒英夫氏 原田啓子氏

株式会社コンパス 大島洋一氏

札幌高速印刷センター 那須川仁氏

札幌Y M C A 主任主事 本行輝雄氏

在日米国商工会議所

また、猛暑厳しい折柄、会議報告書翻訳に御協力下さった以下の方々にも御礼申し上げます。

荒井千代子	井内 一博	諸岡 保和	奥平 譲治	高 和子
伏野 英子	小谷 年司	永長 猛志	奥野 隆生	武田 宏
平生 舜一	熊沢 淑恵	中野 正弘	尾上 洋子	田中五穂子
飯田 翠	神崎ゆかり	根津 豊子	阪本 好子	豊田 清一
飯田 則昭	松井 千代	老田 昭	斉藤 順子	吉武 善雄
井上	松井 秀明	大石 篤美	斉藤 信介	ダイアナ・ベスル
井上 正之	松谷 友子	大谷 啓子	佐々木宏年	マーク・リームズ
石川 祥子	椋本 康裕	岡 和子	柴田 稔	伊藤 博
一色 郁子	村山 幸弘	岡野 龍郎	島川 靖子	小高 義久

最後に、会期中日を追ってまとまってくる調査結果を日本語から英語へ、また英語から日本語へと、翻訳及び通訳をして下さった以下の方々に深い感謝の意を表し、これをもって挨拶にかえさせていただきます。

飯田則昭、エイヤ・カリコスキー、丸山春夫、武田宏、松谷友子、根津豊子、豊島朗、石黒敏明、李聖柱、佐藤達郎。

I

実施の段階

方法

社会開発実施会議の方法は世界のどこでも通用するものであるが、その方法が用いられている一つ一つの状況は常に独特である。大夕張の特殊性の糸口はこの資料文書の内容をなしている5つの総合的図表とそれに伴う討論の中に表わされている。具体的未来像、隠れた問題点、实际的提案、実践体系、実施プログラムなどの図表が会議の流れを反映している。

結果

会議が行なわれた週の初めに要約された大夕張住民の「具体的未来像」は人々が経済的自立、社会的向上、物理的空間の再建に極めて大きな関心を持っている事を明らかに示している。次の日の、「隠れた問題点」を見分ける作業は、大夕張の経済的発展が方向の定まったものでないこと、基本的公共サービスの再建は極めて費用のかかるものであることが特に強調されている。その他の問題点は、地域社会についての住民自身の考え方が激しく変遷していること、社会的関わりの形態がバラバラであることであった。次の日の提案の作業では経済的再建、物理的環境の復興、社会的再構成などが強調された。商業の再建が必要であった。こうした提案を現実に移すための実践体系が火曜日に創り出された。木工業と灌漑施設が地域の経済基盤を拡大させるために示唆された。必要不可欠な物理的環境を整える方法として、より良い物理的空間の改善や地域設備の改良が提案された。会議はさらに、町の売込み宣伝や地域社会の財政体系や、指導者の訓練を勧告した。会議の最後の作業は、実施プログラム図表に示されている。13のプログラムのうち、産業、観光、商業活動、農業が一組になった5つのプログラムが経済的開発を刺激する場所を示している。社会の強化ということが、地域社会教育、レクリエーション活動、開発協力など5つのプログラムの目的である。最後に建物建築や特別の公共諸サービスに関する3つのプログラムは、大夕張の物理的生活環境の再構成を目的としている。

段階

この会議期間中に組まれた地域人間開発計画はその地域社会の開発のための努力を一層強化し、拡大しようという大夕張の住民の決意を表わしている。実施プログラムは、大夕張計画（表5a）を完成させるための4年の段階設計図を含んでいる。初年度の強調点は14のプログラムの着手とこの計画の進展を指導し方向づけることになる地域社会の核となる指導者の養成にある。初年度の終わりまでには、実施プログラムの全部が動き出しているのだろう。2年度の強調点は、プログラムの加速と他の農村地域において、この計画を模倣させることの2つであ

段 階

る。この段階での強調点は、計画を進展させる方向に導けるよう指導者達を装備、充実することである。この計画が確かなものになるにつれて、地元の指導者達は運営全体に対して大きな責任を持つようになる。この時点における第2の課題は近くの村落や道内の似かよった状況の地域へ、この計画を伸張させていくことである。同時にその地域のICAの人員は、減らされることになる。結果として、3年目の終わりには、この新しい計画が実施されている。4年目は計画成熟の時期である。この頃には、外部からの援助はほとんどなくなり、地元依存の統卒が開発プログラムのすべてに渡って最大限に行われるようになる。

II

財 政 計 画

基 金

全体的な、基金計画が社会的開発実施にとって必要である。その地域社会が、自己開発の為に費用に対する責任をとるべく、すみやかに行動せねばならない間、外部から財政挺子入れを受ける事が、はずみをつける為に必要となってくる。実現したプログラムが社会の官公部門からの資金の呼び水となる段階までは、さしあたって民間の資金に頼る事になる。しかしながら、この計画は補助金、有利な利率の長期ローン、信用取引、物品、労力、時間、施設の寄附の形での官公、民間両面からの直接的援助を必要とする。しかし、既存の諸サービスの交付を続ける事は絶対に必要であるが、地元の経済活動が活発になるのに必要なだけの期間に限って、地域社会のサービスの為に新しい外部からの諸資源を直ちに持ち込む事が必要である。

費 用

13の実施プログラムには、この計画の経費の初期の分析と、広範囲な資金調達の形態とを盛込んである。この最初の計画の予想経費は2つの表に示されている。図表6Aは、各プログラムの第1年目の予想経費を資金消費と給料と運営費に分けて示したものである。図表6Bは、4年間予想経費を描写している。3年目の終りには計画自体に対する外部からの支援は必要がなくなるであろうと予想されている。第1年目の予算の47%に当たる主たる部分は、この地域の物理的再構築と経済的開発を援助する為の資本経費である。もう一つの大きな部分は、観光レクリエーション施設の建設、小企業の創業、特別なサービス網を通しての基本公共サービスの再開という領域のための経費となるであろう。地域社会内での給料増加の約3分の1は、計画の仕事に直接働く地元民に支払われる給料である。4年間のうちには、諸プログラムが収入を産み始めるに従って、給料を援助

する為の直接の資金調達には益々必要がなくなっていくだろう。図表 6 C は外部資金調達が漸減し、内部資本が増大していくという流れとして、経済自立の原則を図解している。この動きは完全に総合的な開発の考え方を必要とする。地域社会内で既存の実業の拡大と新しい諸産業と諸サービスの導入を通して、安定した経済基盤が確立され、それが計画への諸努力維持を助ける事になる。

Ⅲ

実 行 兵 力

組 合

13 のプログラムが地元民の参加の為の基礎を備え、実行作業をして行くに必要な地域社会住民の組織についての指導方針を示している。参加してくる全年令層の住民は一連の作業グループの形態、即ち伝統的な組合（ギルド）の現代的形態を取り得る。これらのグループは、更にプログラム実施の諸側面と関連している特別な仕事をして行く機動隊に細分され得る。ギルドの機構を通してこれらの住民は、企画と評価を続けて行くこともできる。

委員会

この組織体裁は、すべての住民が自分達の地域社会の未来についての意志決定に参加できる機構を備えている。大夕張人間開発計画の諸プログラムは、この計画を整った形に調整する責任を持つ 2 つの委員会との関係で纏められている。1 つの委員会は主として経済開発を取扱い、他の委員会が社会開発を担当する。ギルド参加者や他の地域社会住民で構成されているこの委員会は、老若男女を含んで居り、従ってその地域社会の各層を代表している。そのような広範な基盤に立った協力は、効果的な地域社会開発の成功にとって絶対欠かせない。この委員会には、またこの計画を援助する補助団体の ICA スタッフや援助者達を入れる必要がある。

援助者

援助者とその組織網は、大夕張人間開発計画への外部支援の継続を確保する。そのような支援網は北海道や世界中の民間部門との関係の樹立のみならず行政機関の参加と支援を可能にする。資金調達に加えて外部支援は現在のところその地域共同体で手に入れる事ができない情報源、諸公共サービス、専門技術からの援護や利用を含んでいる。

最後に実施プログラムは、ここで補助的と呼ばれている援助団体の様式を示している。力強い人間開発計画の一つの議案は、今懸案の課題に対する、献身と方法

援助者

論的専門技術をもたらす援助団体の存在である。機能上、この団体は地域社会の中での動機付けを行ない、地域社会の想像力に訴え続け、かくして開発課題に対する地域社会の理解を高め、集中させるのである。この団体はまた、継続的訓練を供給する。その殆んどは、人々が共通の仕事を肩をならべて遂行している時に日常的に続けられる。このような訓練によって新しい指導者が続々と出現してくる可能性がある。国際的な構成員を持つこのような団体が現地に居る事が新鮮な視野を絶えず提供し、その地域社会が自らの課題を創造的な方法で理解するのを助ける事になる。この視野の拡がり、その地域についての詳しく知識と、そこに長く住んでいる人の実際的な知恵とたえず密接に結びつけられた時に、効果的なエネルギーの貯蔵が出来上る。今日の大夕張ではこのような一団の中には、灌漑施設、動物飼養業、食品加工業、観光宣伝、保養地管理、体育施設、職業訓練、林業、木工業、園芸、語学教育などの専門家が含まれる必要がある。この補助団体の各成員は自分の専門分野で各々1人内至2人の弟子を責任もって訓練し、その弟子たちが、次の世代に地域社会で責任ある指導者となるよう準備する。

IV

計画の思恵

予 測

大夕張は農村開発の模範として、将来人々が訪れる一つの地域社会のモデルとなるよう意図されている。従って、この計画からの恩恵が、はっきり眼に見えるということが大切である。会議が終って6ヶ月くらい経ってから訪れる人々が、この地域社会を旅行して観察すると思われる事柄が以下の数節に述べられている。これらの所見は5つの領域に分類されている。

私たちを訪問しようとする人が千歳空港のロビーを歩いていると、上質紙に印刷された大夕張の宣伝パンフレットが眼にとまった、彼は棚に歩みよりそれを手に取ってみて、写真の質の良さと美しさに関心する。空港からの直通バスがあることをありがたく思いながら、自分の荷物を受け取って外に出た。緑と白で塗られた新しいバスに乗り込むと、バスは殆んど満員で、観光客の団体と乗り合わせたことに気がついた。彼は隣り合わせた人が東京大学の地質学者で、鉱物調査の結果を知らせにやって来たことを知る。道中、彼等2人は夕食を一緒にすることを約束した。町に入ってくると、白い絨毯をしきつめたような深い雪を背景に際立った色彩豊かな“大夕張へようこそ”の標識に気付く。バスが案内センターの前に着き順番を待っている間に、山脈や年間を通じて利用できる諸施設を示した大きな

社 会

模型地図があるのに気付く。窓口で旅行者用山小屋への道案内を聞き、大夕張新聞を一部渡される。山小屋までの道のりは近く、空気をつめたさは気持ちよく、お燗をした酒が用意されていた。ビロードの座蒲団にくつろいで新聞をひろげてみると、地域社会の色々な行事が報道されていた。彼はあの歓迎標識に“素晴らしい生活の場”とあったのを思い出して、成程当然だなと思った。地元のカレンダーには年間を通じてのお祭りや、学習教室や、娯楽活動などが書込まれており、屋内ブル、バレーボール、老人手芸、青少年大工計画、ボーイスカウト、バスケットボール競技会等々があるのに感心した。彼はこの町がどうしてこうなったのか不思議に思った。近づくウィンターカーニバルのために人々が氷の家を作っている写真を見て、自分が読んで知ったことが本当だということに気付き、もっとこの眼で見たいものだと思う。

産 業

山小屋から静かな住宅街を北へ向って歩いて行くと、シャベルと塩の袋を肩にした若者の一団に出逢った。彼等は青年団に属していて、町のはずれにある老人ホームの屋根の雪おろしを手伝いに行くところだと説明してくれた。広い空地の端に立っている大きな標識から新雪を払い落しながら、彼等は新しい企業が入るばかりになっている開発工業団地を指示し、誇らしげに“ソニーの建設予定地”と読める標識を説明してくれた。その会社は数ヶ月後には操業を開始するということである。二人の若者は新しい工場の仕事を覚えるために、訓練センターで冬期職業訓練を受けているところだと説明してくれた。更に歩を進めると、一群の建物のあたりから新しい鋸屑の強烈な匂いが漂って来た。若者たちに別れを告げ、大夕張運輸トラックに積み込みをしている三人組の人たちに近づいていった。三人のうちの一人が東京で売り出す注文家具の第一便を積み込んでいるところだと教えてくれた。彼は大夕張のシンボルマークを示して、出荷される全ての地元産物に共通につけられており、だんだん人々に知られるようになってきたと説明してくれた。もっと大事なことは、町で始められたあれこれの木工業関係会社就職するために、かつて大夕張に住んでいた人達が再び帰って来るようになったことだと彼は言った。彼等に会釈し、公園のように整理された道を町の方へと引きかえした。道すがら、他の大夕張運輸トラックが長くて低い温室の横に駐車しているのが目にとまった。内部をのぞくと、美しい花や市場に出すための盆栽が何列にも並んでいた。彼は自分が泊る部屋に生花が飾ってあったのを思い出し、あの花はこの温室で育てられたものに違いないと思った。更に歩いて行くと、もう一台のトラックが生産物を地方の市場に配達しているのを見た。見たところこの商売が明らかに繁盛しているのは何故かと尋ねたところ、この地域社会所有の運送協同組合が、消費商品の価格を切り下げるのに成功したということであった。

公共サービス

公衆浴場でのおんぼり入浴しながら、我が町の訪問者は内装のセンスの良さに感心していた。一人の老人が、この浴場のモザイク装飾タイルは二、三ヶ月前のある週末にやった老人と若者の合同作業計画の産物だと説明してくれた時、成程なあと考えた。夕食を一緒にする約束を思い出して、我が町の訪問者は服を着替えて街へ出て、炭坑がブームだった頃に建てられた駅が最近立派に改造されたレストランに向った。コーヒーを飲み、特別美味な大夕張メロンを食べながら、彼はこの生き生きした地域社会の印象を述べた。彼はこの地域社会から準備して報告してくれと頼まれた灌漑開発計画の規模から考えて、これくらいの大きさの町がそれを支える能力を持っているとは到底思えないと、初めは心配したことを告白した。しかし彼は、大夕張では何でもできそうだという点では、地質学者と意見が一致した。たとえばメロンだが、値段はいくらか張るが、東京ではちょっとした評判を生んだ。二人がレストランを出ようとする、日中に積った新しい雪の層を除雪している除雪機の唸る音が聞えた。遠くで聞こえる救急車のサイレンが、大夕張の住民には今では24時間体制の救急サービスが敷かれていることを思い起こさせた。

訓練

二人の訪問者が訓練センターに近づくと、内部の活動のざわめきが聞こえて来た。扉の横の貼紙には、老人大学の来学期の登録が満員になり、まだ登録していない人は二ヶ月後に登録できる旨が書かれている。その貼紙の下には、商業実務、英語、音楽、演劇、社公ダンス、園芸、木工などが入った課程の時間表があった。友人におやすみなさいと言って、我が町の訪問者は建物に入っていった。最初に眼についたのは、活動の分野別に仕切られている明るくて大きな部屋だった。冬祭りのために練習している合唱が聞えていた。一人の若者から呼び止められ、青年指導者プログラムはどこで聞かれているのかと尋ねられ、冬祭りのために新しい演劇グループが練習していることを聞かされた。次に彼は、社交ダンスのレッスンのあいだに習ったばかりの英語の単語を好奇心たっぷりに反復している大人のグループのそばで立ち止った。彼は、ダンスのステップを示すプラスチックの足型が床に貼りつけられているのに気付いて、思わず笑い出してしまった。年令層の幅が広いことは驚きだった。一番大きな音をたてているのは木工作業場がある一隅からで、モーターがうなりを立て、新しい木屑の匂いが鼻をくすぐった。壁には市場調査科目の一部である事務手順の図表が貼ってあった。他の女性のグループが生花教室で花を切りながら笑いさざめいていた。彼は黒板の周りに座ったり立ったりして集まっているさらにもう一つのグループに興味をひかれた。北海道大学の農業専門家がその週やって来て、酪農に関する新発見について講義をしているところであった。自分の宿に帰りながら彼は、遂次増加していく人々の必要に見合うように大夕張夜間学校の集会場を拡張する手だてはないものかと考え

た。次の日の朝、町の中心部に向かって歩いていく途中で、この地域の保育園で子供たちが“大夕張は住みよい所”と歌っている声を聞いて、彼は立ち止った、子供たちの歌声は大きく元気があった。窓からのぞいてみると、子供たちは明るいグリーンの制服を着て、歌に合わせて手拍子を取りながら立って歌っていた。一人の若い婦人が彼に声をかけて、園内を案内しましょうと申し出てくれた。彼女は、今自分はボランティアとして見習いながら、将来は保育園の先生になるべく勉強している何人かの母親の中の一人だと話してくれた。彼女は、入園希望者が多くて、新しく2才児、3才児の組を作ることになっていると話してくれた。ビカビカ光っている木製の玩具や、教育玩具工場で作られた道具などが、暖かい部屋中に散らばっていた。会合に行く際、プラスチックで覆われた運動場で、子供たちが寒さをものともせずブランコや、ジャングルジムで元気に遊びまわっているのに気付いた。

更に進んで、大通りに沿ったアーケードを通り抜けながら、店頭の装飾に気持ち良い統一性があり、どの店にも大夕張のシンボルマークが書き込まれているのに気付いた。店を開けている商店主たちと挨拶をかわしながら、どの店も、ウィンドウの飾付けがなかなか気が利いていて、品物の種類の豊富さを物語っているなと思った。本屋では、驚いたことに、昨日の大夕張新聞と並んで、ニューヨークタイムズと英文アサヒ新聞が置かれていた。地元のうどん屋に入って、そばを食べながら教えられたことには、商業地区再開発プランの全部を、経費に見合う貸付金と町の基金でまかなって、地域社会の努力で60日間でやってのけたということだった。市民広場を横切って、最近、改装された市民会館に向った。会館には、彼が出席しようとしている会合が聞かれるはずの大夕張開発協議会の事務所も入っていた。おきまりの紹介とお茶の後に、その協議会が始まった。彼は壁に掛けられている、6, 7, 8月の地域社会作業日程に目をとめ、自分の話を長期計画の必要性という点に絞ろうと決めた。この協議会の最初の半期年次報告書を手渡され、過去数ヶ月間に相当大きな企画をやって出費が嵩んだにも拘わらず、事業は驚くほどうまく行っているのを知って嬉しく思った。出席している男女を見渡して、問題を解決し、最後の時間で決定を下しているそのやる気を感じ入った。彼は、「自分が関係した中で、これは一番面白い計画になるに違いない。」と独り言を言った。大夕張を訪ねた目的を果して、我が訪問者は帰り仕度を始めた。彼は地域特産品店に立ち寄って、お土産品を買うことにした。息子には化石を、奥さんには夕張岳の山菜の漬物を買った。支払いをした時の、「また、おいでください。」と言いながら微笑した顔が、家に帰りつくまで忘れられなかった。スキーヤー達がリフトに乗って昇って行くのを見上げ、また、美しい孤を描き雪煙を上げてすべり降りてくるのを眺めているうちに、「すぐにも、急いで帰らな

くてもよいのだ。」と決心がついた。スポーツ用品店に急いで、スキーとスキー靴、ストックを借り、アノラックと手袋をつけロッジに急いだ。スキーパトロール小屋を通り過ぎ、リフトの切符を買った。何回か爽快な滑降をやってから、軽食をとるためロッジに立ち寄った。壁にかかっている完成予想図によると、このロッジは来年完成予定建物の中の一翼にしかすぎないことに気付いた。その日のおそく、バスで帰途につきながら、この次には、家族中で大夕張に帰ってきて、もっと長期間滞在しようと決心した。

精 神

後日、この旅を振り返って、彼が一番深く心を打たれたのは、人々自身であったということに気付いた。自分達の地域社会に、自信と尊厳と誇りを持った、生き生きとして一生懸命働く、知的な人々に出合ったという思いがあった。近年、何か、すごく心を深いところでゆり動かすことが人々に起ったに違いないと感じた。人々が大夕張の歴史や将来について語る態度を到底忘れることはできない。恐らく、人々が新しい種類の地域社会精神のようなものを示していたのだと言える。これが大夕張で起り得たのなら、日本中の、いや、世界中の他の地域社会でも起り得ないはずはないように思えた。

V

普 及 計 画

地 方

ここに記述されている大夕張地域人間開発計画は、パイロット計画である。それは、農村地域社会の総合的社会、経済開発の生きた例証となるよう仕組まれている。いわば、他の地域社会で模写ができるように始めから設計されている。初年度でさえ、大夕張でのプログラム実施の努力は北海道の他の地方に知れ渡るであろう。次年度以降では、日本中の他の地域社会に噂が広がっている事だろう。地方での模写には6段階がある。第一段階は補助的団体のスタッフや大夕張地域共同体の指導者による講演会を通して、他の地域社会にこの計画の諸結果を伝統的に教えるという事である。第二に他の地域社会の指導者や住民が、この計画の場所を訪問するプログラムを作る事である。第三は、一日の地域社会会議をし、その中でいくつかの候補地域社会が、自分達の社会が勇気をもってしなければならない事を論じ、実用的ないくつかの提案を明確にする事である。第四は、関心を持っている指導者達に対して、社会方法研修会によってこの計画のやり方を訓練する事である。第五は、ICAスタッフと相談して、地域社会の指導者達が、人間開発計画を発足させる事に含まれる意味あいを探ってみる事である。最後に大

夕張の住民達とICAのスタッフの助けを借りて、その地域社会で同様の計画に参加しようと決断させ、それを開始する事である。

全 国

国中に計画を拡げる努力は、社会・経済開発での地元の責任を推進する運動に具体的で建設的な形を与える事によって、日本の地域社会に対して価値のあるものになるだろう。この事は色々な仕方で日本に利益を与える事になるだろう。即ち、
 (1) 遠隔地帯、特に単一産業しかない地域社会への新しい試みを劇的に行なう。
 (2) 既にある政府の地域社会再開発計画と協同しつつ、地元の人々に地域社会開発の計画と実施を決心させ、創造的に参与して行く方法を備えていること。
 (3) 日本の住宅基地の為に、低コストの地元民により管理された社会福祉機構を開発する事。
 (4) 地元の住民に、自分達の配慮、世話をする自発性を発揮させる事。
 (5) 都市社会開発への試みを設計する。同様の計画実現の為に具体的諸段階は、前述の地方レベルでの計画の為に6段階と同様に、地元の指導者や、民間部門や興味を示す公務員などからの支援を必要とする。そのような人間開発計画は、日本中で、地方の地域社会と人間らしい環境として回復する事を実地実証する事になる。

人 事

一つの計画を模写するには、スタッフの数と訓練の必要度を予測しなければならない。計画実現に必要なスタッフの数は、パイロット計画のそれよりは比較的少なくすむ。日本中にモデル地域社会網を創り出すには、各地域社会に2年以上の期間6内至10名のスタッフが必要となる。このスタッフはこの地域社会の人々と共に住み、共に働き、色々な技能を人々と分かち合うのである。一単位としてのスタッフは専門技術の巾広い分野を包含する。更に大切な事は、スタッフ各人の地域社会生活を革新しようという深い関心である。コンサルタントのグループは、官公と民間の両部門からの人々で構成されていて良い。彼らは日本の各地からの人々で、中には1年間のフィールド実習で単位をもらえる形で参加する大学生を含める可能性もある。ICAは、これらの計画実行者達の為に地域社会開発方法の実際的訓練を受け持つ事もできる。パイロット計画でも、その後の同様の計画でも、教室での勉強と実際的フィールド訓練が組み合わせて行なわれなければならない。

財 政

進行中の地域人間開発計画の構造を通して、ICAは北海道や日本各地の他の場所での同様の計画に対して、最低料金で訓練人材を提供できる。それぞれの計画でのプログラム予算は、地元の必要に応じて組まれるであろう。財政計画は、官公と民間の両者からの援助と長期ローンの両方を配分した資金によって支えられる事になるだろう。地域社会の住民も直接的な現金寄附のみならず、時間や労力

の提供を通して直接に計画に参加できる。地元地域や、それ以上の地域からの支援源は進行中の地域人間開発計画の達成が成功する事によって大きく広がるであろう。

IV

支援組織

選 択

過去数年にわたって文化事業協会（ICA）は、人間開発のパイロット計画の候補地を探して、日本国中の地域社会を数多く調査してきた。最終的に、大夕張が幾つかの理由によって選ばれた。第1に、それは農村地域社会であるにも拘らず、千歳空港から僅か1時間のところに位置していて、進行中の地域・人間開発計画を見たいと思う訪問者が容易に近づけるという利点がある。第2に、社会・経済開発の必要性が誰の目にも明らかだったということ。第3に、官公部門も民間部門も、そのような開発の努力に協力しようという関心を示したこと。第4に、この地域社会が北海道に位置しているということが、日本人の先駆者精神と誇りある伝統を反映していること。新しい地域社会の未来像がここで実現するのにふさわしい。第5に、多分一番重要なことだが、大夕張の住民と彼等の指導者達が、社会・経済開発に向って、すぐにでも動き出す準備があったということである。

スタッフ

文化事業協会は今後、大夕張地域・人間開発計画の事業を支援するのに欠かせない、コンサルタントとしての奉仕を提供し続ける用意がある。これは、この計画の補助者として奉仕するスタッフを任命するという意味である。補助者の技術と専門は、世界中で行なわれている地域人間開発計画の情報をスタッフと地元の参加者が、組織的に交換することによって強化されるであろう。任命をうけたスタッフは大夕張に住み、この計画に専念することになる。スタッフにかかる費用は、彼等が直接にかかわる色々なプログラムの中で既に述べられている。

支 援

文化事業協会は、プログラム実現を可能にするための資金や物質、労力、寄附の調達において、地域社会の指導者を助ける準備が整っている。援助者網との協力によって、地元住民と補助者スタッフは官公と民間両部門からの支援をあおぐ立場にある。来るべき年間の資金調達の目標は、企業や財団や関心を持っている個人の贈与や補助交付金を通じて、大夕張に対する支援の基礎を開発することである。計画のこの時点では、大きな部分を外部からの資金調達に頼ることは止むを得ない。しかしながら長い目でみれば、外部資金への依存度は次第に減ることに

なるであろう。

方 針

1977年の7月までには、世界的には24の人間開発計画が発足していることであらう。1975年から1976年間に8計画がオーストラリア、インド、ケニア、マレーシャル群島、フィリピン共和国、大韓民国、イギリス、米国で確立された。更に16の計画が1976年6月までに完成されていることであらう。大夕張一地域・人間開発計画は23番目の計画であり、今年に入ってから開始される15番目のものである。地域社会を生れ変らせるのは、そこに住んでいる人達なのだという今迄あった多くの事実の一つとして、大夕張計画は日本に貢献するものとICAは予言するものである。

計 画	内 訳	資本投資	給 料			諸 経 費		合 計
			現 地	補 助	その他	経 費	旅 費	
1.	林 業 関 連 産 業	5,130	21,600	1,800	—	330	—	28,860
2.	観 光 施 設 の 開 発	20,400	14,400	1,800	—	1,890	—	38,490
3.	新 し い 産 業 の 導 入	4,500	10,800	1,800	3,600	240	180	21,120
4.	中 小 企 業 再 興	13,500	9,000	1,800	—	1,350	—	25,650
5.	共 同 農 業 開 発	21,000	1,800	1,800	450	510	—	25,560
6.	建 造 物 新 設	9,000	1,800	1,800	1,500	480	—	14,580
7.	公 共 施 設 開 設	14,700	5,400	900	—	1,020	—	22,020
8.	特 別 サ ー ビ ス 網	15,750	4,500	1,800	—	2,250	—	24,300
9.	大 夕 張 開 発 協 議 会	2,850	3,300	1,800	1,500	900	300	10,650
10.	地 域 活 動 セ ン タ ー	2,400	3,300	900	—	1,680	300	8,580
11.	職 業 技 術 訓 練	1,350	3,600	900	—	960	—	6,810
12.	指 導 者 養 成 機 構	300	1,800	1,800	—	150	1,200	5,250
13.	生 涯 教 育 組 織	450	1,800	900	—	240	300	3,690
合 計		111,330	83,100	19,800	7,050	12,000	2,280	235,560

大夕張
地域・人間開発計画

ICA コンサルタント

4 ケ 年 計 画 の 為 の
予 算

第 6 B 表

単位：千円

計 画 \ 年	1	2	3	4	4 ケ年間の 合 計
	昭 52 - 53	昭 53 - 54	昭 54 - 55	昭 55 - 56	
1. 林 業 関 連 産 業	28,860	38,430	11,010	—	78,300
2. 観 光 施 設 の 開 発	38,490	27,240	9,390	—	75,120
3. 新 し い 産 業 の 導 入	21,120	13,620	330	—	35,070
4. 中 小 企 業 再 興	25,650	10,870	2,730	—	39,250
5. 共 同 農 業 開 発	25,560	5,310	1,140	—	32,010
6. 建 造 物 新 設	14,580	10,080	930	—	25,590
7. 公 共 施 設 開 設	22,020	7,320	2,700	2,700	34,740
8. 特 別 サ ー ビ ス 網	24,300	8,850	7,350	5,850	46,350
9. 大 夕 張 開 発 協 議 会	10,650	7,500	2,400	—	20,550
10. 地 域 活 動 セ ン タ ー	8,580	6,180	4,380	2,040	21,180
11. 職 業 技 術 訓 練	6,810	5,460	4,560	4,560	21,390
12. 指 導 者 養 成 機 構	5,250	5,100	2,550	2,550	15,450
13. 生 涯 教 育 組 織	3,690	3,540	2,340	540	10,110
合 計	235,560	149,500	51,810	18,240	455,110

地域内自給を目指しての

計画の資金フロー

ICA コンサルタント

単位：千円

資 金 源		年		1		2		3		4		4 ケ 年 間 の 合 計	
				昭 52 - 53		昭 53 - 54		昭 54 - 55		昭 55 - 56			
外部および 内部からの 資 金	外部からの 資 金	官公庁 または 自治体	貸 付	36,000	10,300	—	—	—	—	—	—	46,300	
		私企業 または 個人	補 助 金	70,000	42,000	—	—	—	—	—	—	112,000	
			法 人	79,500	39,300	7,760	—	—	—	126,560			
			個 人	26,500	13,100	2,600	—	—	—	42,200			
			合 計	212,000	104,700	10,360	—	—	—	327,060			
外部および 内部からの 資 金	内部からの 資 金	寄 付	現 金	2,300	7,220	12,440	9,220	31,180					
			現 物	2,200	5,200	8,290	7,200	22,890					
			短 期	2,580	9,980	11,400	1,820	25,780					
			長 期	16,480	22,400	9,320	—	48,200					
		合 計	23,560	44,800	41,450	18,240	128,050						
資 金 の 合 計				235,560	149,500	51,810	18,240	455,110					



ICAコンサルタント

文化事業協会

THE INSTITUTE OF CULTURAL AFFAIRS

〒068-06 夕張市鹿島富士見町

☎(01235)4-2110

ブリュッセル

Rue de Suisse 26
1060
Brussels
Belgium

ナイロビ

PO Box
21679
Nairobi
Kenya

ボンベイ

13 Sankil St
Byculla
Bombay
India

シンガポール

24 Sea Ave
Singapore
Republic of
Singapore

香港

16 Kimberley Rd
Block B-4A
Kowloon
Hong Kong

シカゴ

4750 Sheridan Rd
Chicago
Illinois 60640
USA